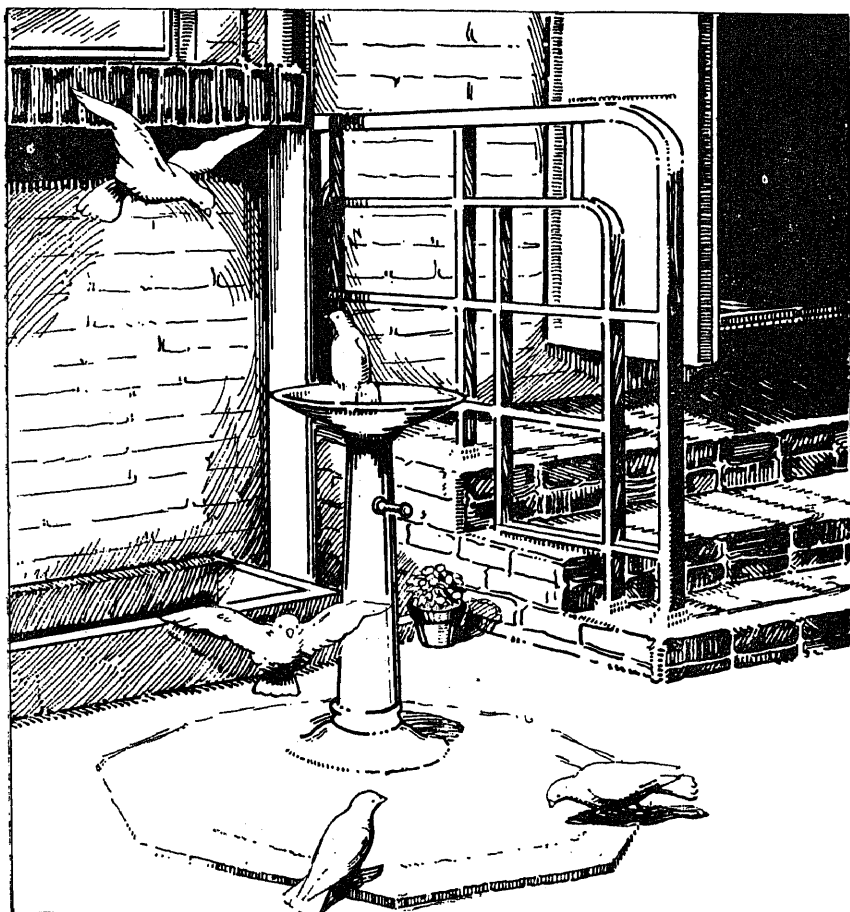


# 幼 兒 教 育

第 三 十 五 卷      十 二 月 號      第 十 二 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內  
日 本 幼 稚 園 協 會

東京高等師範學校教授  
 文藝學博士  
 小野島左右雄著

好評評

廣島文理科大学内 應用心理研究會編

# 應用心理研究 第二卷

菊判洋綴紙數五百五十頁  
 定價金三圓・送料廿二錢

**要目**  
 騒音の作業能率に及ぼす影響に就いて  
 工場作業能率の標式  
 學齡兒童の年間の智能發育と  
 學業及び身體との關係  
 洞察に關する實驗的研究  
 人は利益なしに働かぬか  
 藝術に對する意見の評定  
 藝術に表現されたる女の幽靈

松本 岡村 威儀  
 醫學士 高 峰  
 醫學士 久 保  
 文學士 上 野  
 文學士 古 賀  
 文學博士 松本亦太郎  
 文藝 良 英  
 行 義

工人の性格検査實施法  
 記憶検査による精神的障礙の觀察  
 森田神經質說の行動主義契機に就て  
 氣質・性格の研究  
 新心理主義文學覺書  
 歐米の應用心理學概観  
 裁縫教授の研究

文學博士 岡部彌太郎  
 文學博士 戸部武行郎  
 文學士 古 閑 義 郎  
 加 藤 春 雄  
 桐 原 金 雄  
 松 本 順 之 見 吉

## 最近心理學概説

菊判全一册洋綴 定價五圓八十錢 梓川三針

## 性格心理學と兒童研究

菊判全一册洋綴 定價二圓七十錢 送付片一紙

## 心理學要論

菊判全一册洋綴 定價二圓 送料廿二錢

學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず  
 科學の方法論・生活論・心理學の成立と新しき哲學的  
 示を受け教育家は生徒の心的體制的教育の  
 の新方法を教育せられ一般人は人間の具象の心的體  
 の最も即事的なる論理と應用を示され、斯くてこそ  
 心理學は科學の先陣に立ち此思想困難の打開に資す  
 兒童研究、性格心理學に主點を置き各種の新研究を  
 發表し、猶最近心理學の動向を檢討し最も斯學の  
 斯學上の諸問題を提出し之等に對し教授獨自の立  
 場を展開してその進展に寄與すされば一般心理學  
 及び教育家爲學者の御必讀を乞ふ。

現代の科學的心理學一般理論を一つの簡單なる體系  
 の中に織り成して叙述せる心理學の要論である。舊系  
 來の動向を正しく心理學の形骸を脱して現時代將來の  
 の下に正確なる科學の所産を披瀝し猶ほ常に豊富な  
 の暗示を與へてある。

發行所 東京市牛込區中 文館書店 電話 振替 東京三三三 八二二 四二五 七番

# 生徒募集

本科生 四十名

研究科生 若干名

願書受付 昭和十一年十二月一日ヨリ  
昭和十一年三月二十日迄  
規則書は貳錢切手封入の上申込まれよ。

創立以來二十一年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、  
附近に森あり、野あり、川ありて四時自  
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然  
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用  
の手工等材料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目二三三  
省線西荻窪下車直南約五丁

新刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價 壹圓

送料 金四錢

一、保育案の實際は幼稚園必須の資料

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

一、待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

東京市小石川區大塚町三十五番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

# 生徒募集

本科生 四十名

研究科生 若干名

願書受付 昭和十一年十二月一日ヨリ  
昭和十一年三月二十日迄  
規則書は貳錢切手封入の上申込まれよ。

創立以來二十一年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、  
附近に森あり、野あり、川ありて四時自  
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然  
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用  
の手工等材料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目二三三  
省線西荻窪下車直南約五丁

新刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價 壹圓

送料 金四錢

一、保育案の實際は幼稚園必須の資料

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

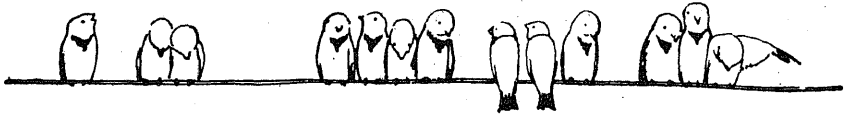
一、待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

東京市小石川區大塚町三十五番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所

日本幼稚園協會



號二十第 育 教 の 兒 幼 卷五十三第

—(次 目)—

口 繪

卷 頭(廊下で)……………倉橋惣三(一)

行き過ぎた幼児教育(二)……………和田 實(二)

子供の繪について(其二)……………菅原教造(八)

兒童心理學文獻抄(十三)……………牛島義友(一八)

臺灣幼兒保育について……………(二三)

兒童の性格……………安部光植(三三)

冬期のこどもの衛生……………岡田道一(四〇)

一年間の保育(三)……………宮本光代(四四)

主任の先生方へ……………大塚喜一(五〇)

思ひまゝを述べて……………米山エン(五五)

雜 錄……………(六三)

總目錄

# 長尾 豊著

四六判美裝振假名付  
挿圖入二八〇頁函入

定價一圓五十錢  
送料十四錢

# 幼稚園 低學年 びんにんぎやう

紙芝居以上に子供達に親しまれる壇人形の作り方遊ばせ方と壇人形應用のお話と劇を集む

\* 壇！そこらあたりに澤山轉がつてゐる壇も、こんな風にすれば紙芝居以上に子供の心を惹きつける。何故もつと早く出なかつたかと思はれる程子供に愛される壇人形の作り方。その遊び方遊ばせ方から、壇人形應用のお話と劇を入れた懐かしい本！幼稚園や低學年の生活を豊にする。

この素晴らしい内容を見よ——  
**びんにんぎやうに就て**  
（梅人形の畫と記事・舞臺で見た梅人形・ウエスリイ傳の一節・説明と紹介の仕方・お話と人形の動き・やさしいお話風に：壇人形のお話と劇いろいろのな壇の形・壇人形のつくり方・條件としての「簡素」・いくらかの爲残し・簡単に仕上げる要領・人形の顔（首）と手足・着物冠り物持ち物・壇人形の缺點二つ）

幼稚園  
低學年

## おはなし

長尾 豊著  
四六判美裝挿圖入  
價一・五〇 送一・四

\* 何か幼稚園や低學年の子供に親しまれる新しい話材をといふ要求に應じて本書は生れた。著者は兒童劇の第一人者。一つ一つの話にその話し方や解説がつき、總振假名付。學校に家庭に幼稚園に！

幼稚園  
低學年

## おゆうぎ

長尾 豊著  
四六判美裝挿圖入  
價一・〇〇 送一・四

\* 第一に面白い。そして新しい。實際、行詰つてゐる「おゆうぎ」に明るく光を齎すものだ。これなら、目新しくして子供の興味にびつたり合ひ、然も柔かい子供の土壤を培ふ教育遊戯として喜ばれる。

石井小浪著	幼稚園の舞踊	踊價〇・八〇 送〇・八
石井小浪著	尋一	踊價〇・八〇 送〇・八
石井小浪著	尋二	踊價〇・八〇 送〇・八
小瀬峰洋著	體育教材としての學校舞蹈三十四講	價一・〇〇 送一・〇
北村久雄著	學藝會運動會の新研究	價二・八〇 送二・四
齋藤・梅兩著	兒童陸上競技の指導と實際	價二・八〇 送二・四
永澤義憲著	幼稚園教育の實際	價一・八〇 送一・四
齋藤薫雄著	體育新心理學	價二・三〇 送二・四
齋藤薫雄著	小學校遊戯競技全教材との指導	價一・五〇 送一・四
青柳善吾著	音樂教育の實際問題	價二・〇〇 送二・四
伊庭孝著	日本音樂概論	價八・五〇 送二・四

河野伊三郎著	童話鑑賞の實際	價一・八〇 送一・四
長尾 豊著	童話と其味ひ方解説	價二・一〇 送二・四
三森連象著	幼稚園や低學年の生活圖書指導	價二・六〇 送二・四
草川・長尾著	唱歌あそびと小さい唱歌劇	價一・〇〇 送一・四
長尾 豊著	お話あそびと小さい劇	價一・六〇 送一・四
坊田かずま著	やさしい獨唱と輪唱曲集	價一・二〇 送〇・八
長尾 豊著	短い對話と小さい劇	價一・六〇 送二・四
長尾 豊著	短い對話と小さい劇	價一・八〇 送一・四
北崎永榮著	先生としてのお父さんお母さん	價一・〇〇 送一・四
坂内ミツ著	子供の遊ばせ方	價一・〇〇 送一・四
大谷恒郎著	先生から知ると生きた教育實話	價一・八〇 送一・四

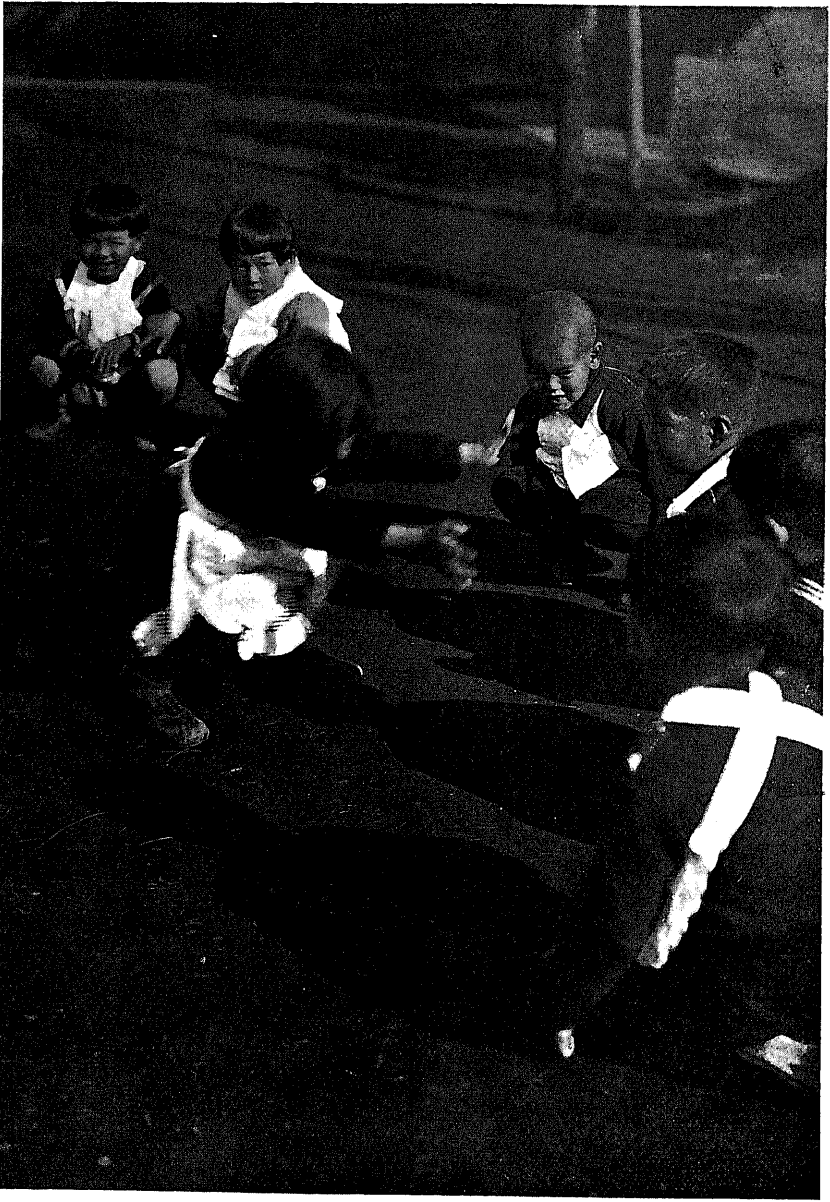
その他兒童劇書  
多數刊行目錄呈

閣生厚

町番六下・町麴・京東  
番〇〇六九五京東替振

に庭家に園稚幼  
！に校學てしそ





誰れ？！？！

園稚幼屬附

# 幼 児 の 教 育

昭 和 十 年 十 二 月

## 廊 下 で

泣いてゐる子がある。涙は拭いてやる。泣いてはいけないさいふ。なぜ泣くのさ尋ねる。弱蟲ねえさいふ。……随分いろ／＼のこまはいひもし、してやりもするが、ただ一つしてやらない。泣かずにゐられない心もちへの共感である。

お世話になる先生、お手数をかける先生。それは有り難い先生である。しかし有り難い先生よりも、もつこほしいのは嬉しい先生である。その嬉しい先生はその時々的心もちに共感して呉れる先生である。

泣いてゐる子を取り圍んで、友達が立つてゐる。何んにもしない。何んにもいはない。たゞさも／＼悲しそうな顔をして、友達の泣いてゐる顔を見てゐる。なかには何だか譯も解らず泣きそうになつてゐる子さへゐる。

# 行き過ぎた幼児教育 (二)

目白幼稚園 和田 實

幼児教育の大切なこころは、今更、述べ立てる必要もありませんが、然りて、幼児教育さへ全力を盡くしさへすれば、凡ての教育は出来上る様に考へて、少年時代、青年時代、を俟つまでもなく、情操教育、理性教育迄も、幼児時代に於て、出来るかの様に考へるこころの間違つて居るこころに就いては、去る六月號に少しばかり書いて置きましたこころは、讀者諸君の記憶せらるゝ所であらうこころ存じます。夫れで、情操教育のこころは省いて、今少し他の方面に就いて、書いて見たいこころ思ふのであります。

平素、常に、行つて居る保育の中に於いて、行き過ぎたこころを行つて居るのは観察遊びであります。保姆に非らざる園長の管理して居る幼稚園、殊に幼児教育の理解なき小學校長に因つて管理される幼稚園の保育を參觀する時、最も此感を深くするこころが多いのであります。即ち、観察遊びは、遊びに非ずして観察教授となつて居るのであります。観察教授は小學校高學年の仕事で、低學年に於いてさへ、行はぬものであるのに、幼稚園の保育として観察教授をして居るのを、往々にして見受けるのであります。是は明かに、行き過ぎた保育に違ひないのです。見せた以上は夫れに就いて、話すのもよし、教へるのもよいではないか。必ず、覚えさせる、こころ限るのでなければ、重要な諸點を説明してやつても、決して、

悪いことは云へないではないか云ふ人もありますが、そして、又、是が、教育者としての欲ではないか云ふ人もありますが、是が抑も、過ちの元で、短氣や焦燥で、折角の辭ひはへを枯らして仕舞ふのを知らないのと同じであります。何事も、時が來なければ熟さぬもので、出來る時が來なければ出來ないものです。出來ないものを出來かさうとするところから、起る無理は必ず何處かに、崇ると思はねばなりません。小學校の高學年で行ふところの博物教授を幼兒に眞似るこの利益は何としても考へられないことです。是に類したことを世の父兄が、能く旅行先で行つて居るのを見掛けることがあります。子供の爲めさばかりで小さな子供を觀光旅行に連れて歩いて、名所、舊蹟の古事來歴を事細かに説明して居るのを鎌倉あたりで、よく見掛けるものです。是がほんちに、教育愛に燃えて居る親心であります。併し、子供は頓とんと興味がないものですから、馬耳東風で、けろんとして居る始末です。子供こそいゝ迷惑ごま云はねばなりません。

是に似た行き過ぎ保育が保姆實習生の行ふ數へ方遊びにも屢々見受けることがあります。併し、是は單に保姆實習生ばかりでなく、可なり經驗ある保姆の保育にも往々にして見る所のものであります。斯る人の數へ方遊びは小學校低學年の算術練習と何等選ぶ所のないもので、數へる遊びではなくて、加減乗除の算術練習であります。其練習題の中に三に足す六は幾つ、七足す八は幾つと十一から三を取つたら幾つと二つ宛三つで幾つになるか云ふ様な算術練習題が多分に含まれて居つて、單なる數へ方遊びは、全く異なるものが多いのであります。そして、肝心な數へる云ふことは碌ろくに行らずに終る云ふ保育振りが相當多いものであります。是も、明かな行過ぎ保育で、子供には何等の興味もないものです。従つて、何處の幼稚園でも、子供が數へ方を嫌つて困る云ふことを聞く所以であります。斯る算術練習は小學校の子供でさへ、中々、困難なものですものを、況して、幼稚園の子どもの好く苦はありません。併し、數へ方遊びは少し心的發達の出來て來た子供には、頗る面白いことなので、よい遊びの一種で、悦んで子供のすることでありませう。唯、一步を踏

み越すこゝに因つて、行き過ぎたものなるのであります。注意しなければなりません。

次に、最もよく行はるゝ行き過ぎ保育は躾方に於いて見るこゝが出来ます。尤も、此躾け方ミ云ふものは、躾ける人の老若男女の差別に因つて、随分ミ差異のあるもの、又躾けらるゝ子供の男女に因つても、多少の差異のあるものですが、概して、老婦人に因つて、躾けらるゝ場合に於いて、行き過ぎた躾け方が、最も多く行はれるものであります。子供の年に不相當に、人前を氣兼させたり、人の顔色を伺つたり、氣嫌を取る様なこゝを云はせたり、空お世辭を云はせたりして子供の天真を損ふこゝが、頗る多いのであります。之に反して、若人に因つて躾けらるゝ場合には、兎角無躾になり勝で、所謂、野生満々ミ云ふ場合が多いのであります。此場合、過ぎたるは及ばざるに如かずで、行き過ぎた躾け方は其及ばざるよりも弊害は多いのであります。何となれば躾け方ミ云ふものは、子供の自由を束縛し、其天真の活動を抑制するこゝが多いのですから、多くを躾けるこゝは、子供の存分の發展を妨げる結果になるのであります。お婆さん子の三百安い所以であります。此點に於いて、都會の子供は田舎の子供よりも、多くを躾けらるゝだけに、所謂、都雅上品の狀態はあるものゝ、其元氣に於いて、其本性の暢達の點に於いて到底、田舎の子供に及ばぬミ云ふこゝになるのであります。

以上は躾け方の中でも、躾け箇條の多いか少いか、ミ云ふこゝであり、其躾けの形式が簡單か複雑かミ云ふこゝに因る相違を論じたものであります。茲に、今一つ異つた場合があります。夫れは、保育者即ち母親なり幼稚園の先生なりが、幼児に命令又は禁止を命する時に、一々其命令箇條に理由を付けるこゝであります。例へば「お池をいたづらしてはいけません」ミ云ふ禁止命令を下す場合に必ず語尾に「お池の水は穢ないから」ミ云ふ理由を附加するこゝであります。斯る例は近來の若い保姆は勿論、相當經驗もあり、思慮もある老成の保姆でも随分行つて居るこゝです。今二三の例を上げて見るこゝ

「花壇の中に入つてはいけません。土が堅くなるミ植木の芽が出ないから」ミカ「水を飲んではいけません、お腹が痛くなり  
ますよ」ミカ「驅けてはいけません轉ぶミ怪我をしますよ」ミカ云ふ風に何等かの理由を附加しなければ氣の濟まぬ先生が  
ありますが、是なきも行き過ぎた幼児教育で、幼児の躰け方ミ云ふものが何う云ふものであるかミ云ふ其本質を辨へぬ所  
から來る誤りであります。夫れも、保育法を學ばぬ幼児教育を理解しない一般の母親か老人かゞするのなら、仕方がない  
とも、云へますが立派な保母の修業をした、幼稚園の先生がするのだから、情けなくなりません。多分、斯る先生は學校又  
は養成所に於いて、學んだ幼児の心理や兒童の道德性の發達経路ミか段階ミか云ふ問題に關する講義を卒業ミ共に忘れて  
仕舞つたものでせうが、是では、保母ミしての修業は何の爲ぞやミ云ひたくなる位のものです。

元來、子供ミ云ふもの、殊に、幼児ミ云ふものは判らず奴で、一知半解のものであります。決して、獨立した思慮的行  
動の採り得るものではありません。故に、子供自身ミしても、決して、獨立獨行なきしやうミは、決して思はぬもので、  
何事も、親にたより先生に頼よるもので、家にありては親の心を自分の心ミし、幼稚園にあつては先生の心を自分の心ミ  
して何事も「先生是でいゝの?」「母さん是していゝ?」ミ云ふ様にして、人に決斷して貰ひ、指揮して貰つて安心して居る  
ものであります。従つて、從順ミか素直ミか云ふのは子供の天性なのであります。から、此時代に於ける教育者の指揮命  
令には必ずしも、理由の附加を必要ミしないのであります。否教育者の指揮命令は、單に、指揮命令ミして、其儘に、直  
に、實行に移さるゝミカが、必要なのであります。指揮命令の理由は、決して、簡單なものではありません。夫れを數言、半  
句、で示さうミ云ふミは無理であります。子供の理性が發達して、理由の説明を求むる場合には別に之を説明すること  
は必要ですが、命令毎に理由の附加なしには實行しないミ云ふ様な悪い癖を附けては教育上有害であります。是も明に、行  
すぎた保育の仕方、判らず奴を早く判る子供に仕やうミする、氣早な親心からの教育欲のいたす所で、無理のない誤り

ではありませんが、幼児心理を學び自然の發達を重んずる現今の教育者の探る可き方法ではありません。是に就いてよい實例が或る所で持ち上りました。夫れは、私の知人の家の近所での出來事でしたが、或時、二人の子供が飯事遊びをして居て、甲なる子供が「一寸下駄貸してね」云ひながら、乙なる子供の下駄を履いて、飯事ま、ごこの材料ま、ごことしての草を探らふことで、傍を流れて居る小溝の縁ふち迄行つた所が、足滑らして、甲なる子供が溝の中に落ちて、下駄は勿論、着物も身體も溝泥だらけになつて仕舞つた。之を見た乙なる子供はけたたましい聲を張り上げて泣き出した。而も「誰々さんが溝ぼろに落ちたア」「云ふのではなくて」「下駄がよごれたア」「云ふのであつた。云ふことで、折から、其處に居合はせた私の知人は、此乙なる子供が普通の子供の様に、友達ともだちの溝に落ちたのを驚かないで、自分の下駄のよごれたのを悲んだ云ふことに奇異の感を持ち、段々其乙なる子供の家の様子を觀察して居つたらば、其子供の平素の躰けられ方が、普通でなく、着物でも、帽子でも、靴でも、玩具でも凡べての所有品を少しでも、汚したりこはしたりするに、非常に嚴重に叱言こいごを云ひ、時には罰したりするところがあるので、其乙なる子供は戦々兢兢せんぜんせいせいとして着物や帽子なきを大事にする習慣である云ふことでした。

是なきも、明に、躰けの時期しじき簡條かんじょうが、子供の心理や發達を無視した、行り方で、度を過ぎた教育の誤りでありませぬ。是と同じ誤りで、方面の少し違つて居るのを今一つ上げて見ます。童話、其他の談話の終りに、教訓を附け加へて、子供を早く、判らず屋の境界から、救ひ上げ様にするにありませぬ。是のよい實例が、此間も、或處で起りました。夫れは、或時、其處の保姆がお伽話をしました。其話は「子供の悦よろこぶ話」の中にある話ですが、秋の山の上で、紅葉が「私達がこんな美しい着物を着て居るのに、向ふの常磐木とこはなさんはまだあんなきたない着物着て居る」云々笑つたらば、數日して此風に其きれいな着物を、すつかり吹き落されて、泣き出した云々話ですが、其話をした終りに、それだから、皆さんも美しい

着物なご着たがつてはいけない。そんな子供は紅葉さんの様に不仕合になるに諄々くまぐまに教訓を加へたものでした。所が、數日經て、明治節になつた朝のこゝ、其園兒の子供の家で、母親が新らしい着物を子供に着せようとするに、子供は「紅葉さんの様になるから嫌だいや」と云つて、何うしても着換へない。仕方がなく平常着ふだいぎのまゝで、幼稚園に出したと云ふ事件が起りました。是なごも、明に、行き過ぎた教育を行つたもので、母親の云ふこゝをきけ」と云ふこゝ一點張りで行く可き幼児教育の時期に、殊更に思慮的行動を行ふ様、教訓したのが、悪かつたので、幼兒の心理と道德性の發達段階を無視した行き過ぎた幼児教育の誤りであります。是に類したこゝはまだくゞ上げれば幾等もあらうと思ひますが、餘り管々しくなりますから、是位にして置きませう。



# 子供の繪 其二

菅原 教造

八

子供の繪の話の續きです。前號では、本筋の話をする上に邪魔になるものを片付けるのに、相當長くかゝりました。氣のついた人は考へ直して頂きませう。すべてのごきは、解つて見れば、それは如何にも解り切つた事で、何の變哲もない、ごく平凡なものです。「なーんだ、こんな事に今まで引つかゝつてゐたのか」と言つたやうなものです。實は自分で苦んで、その引つかゝつてゐる點を、皆さんが捜し當てなければならぬのです。そして「成る程、さうか」「ア、こゝだ」と自證しなければならぬんです。それを、自分で苦勞もしないで、ものごきを他人の話で聽いて、さてぎれだけそんな事が皆さんの身に泌みるか……今更らそんなごきをこゝで考へたつて仕方がありません。ぼつ／＼始めませう、獨白です。

(七) 人ご自然——本號では、子供の繪の話をする土臺になるものを述べて見ませう。項目は「人ご自然」です。

初めに「向う側」の話をして見ませう。そこに大きな意圖がある、大袈裟に言へば、それは天意ごも言ふべきものです、道理です、道です。比喩的に言つて見れば的(め)です。はつきりした的(め)が立つてゐるのです。

次に今度は、「此方側」の立場の話をしませう。やはり比喩的に言つて見るに、矢を弓に番へて、的に狙ひをつけて、切つて放つ迄の氣持ごいふごきです。もう一步突込んで言へば、切つて放てば、確に的中(あた)するごきを見透しです。さういふ確認(けんたう)です。決して外れるごきのない見當(けんたう)です。直覺(ぢくかく)ご言つても洞察(めいさつ)ご言つても明智(めいち)ご言つても達識(たつし)ご言つてもいふでせう。

これは、たゞ一筋の氣持、即ち一向專念の氣持で、しかも成心のない虚無の心境ですから、一念を言つても、純心を言つても、初心を言つても、無心を言つてもいゝでせう。この氣持は、普通の人から見ると、人間離れがしてゐて、人間の意圖即ち雜念が見えない氣がするものですから、無意識を言つてもいゝかも知れません。しかし何を言つても、やはり人間のすることですから、これを言ひ直して無意識的意識を言つた方がいゝかも知れません。

次に、「向う側」を「此方側」の現はし方を一つにまごめて見るに、天來の斷案又は素の心言つていゝでせう。自分のしてゐる事でしかもそれは自分のせいでないといふ氣持です。これが人間を言ふものです。

この天來の斷案、この素の心は、人間でゐて人間離れのした心境、即ち道の氣持ですから、たゞへ自分に解つてゐる意識されてゐる言つても、人爲の努力なしに、何事なしにボーッと解つてゐるといふ氣持です。つまり一點の坎所を抑へて、あみを放りつばなしにして置くといふ氣持です。或は坎所を誰かに抑へてもらつて、自分は全く手放して暢氣にしてゐる言つた方が、却つていゝかも知れません。無爲の氣持です。抑へなければ全體が總崩れなのですが、フツツそれを樂に抑へてゐるのです。それですから、間が抜けてゐて、十分に尻尾を出してゐて、それでチャンと縮りのついてゐる氣持です。之は場面に見透しがつき、ものが片つ端からかたづいて澄み切つた水面には一漣の波紋もない時の氣持です。

しかし人間の事ですから、時には水が濁つて渦をまいてゐるこゝもあるでせう。さういふ時には、行くの的の見當がつかません。随つて、ものはジーンと止めてゐないで千變萬化するのみならず、自分の態度もやはりいろいろに動きます。一體その道にやらのふものが、有るのやら無いのやら、向うに當てがなくなつた途端が、ものも動き、自分も動く瞬間です。その時には、大地がグラグラする時であり、何を何遍考へて見ても、何を何度作つて見ても、一體それがいゝのか、わるいのか、さうしても解らない時です。

さうせ人間のする事です。的はチラついてゐるだけです。實は何をしても半端なのです。未完成なのです。濁流に漂はされるのは、寧ろ當然の事言つていゝでせう。しかし考へ方によつては、これは人間に與へられる光榮なる未完成です。何故か言へば、完成は人間離れのした瞬間の悦びであり、ほんの一瞬の閃きであり、次に瞬間にはまた、人間本來の汗と血と涙の世界が待ちうけてゐるからです。

このやうに人間は半端なものですから、そのために初一念の追求があるのです。未完成であるから、涙ぐましいほどの無限のやり直し、血の出るやうな果てしない反復が必要なのです。これが人間の修業です。

かうして苦んでゐるうちに、思ひがけないいろいろのものが生れて來ます。思ひがけないものは、追求して行く一面・一場面の變化が教へてくれて新しい世界です。さういふ風に、つまり向うから招いてくれるのです。氣がついて見るに、何處か向うから呼ぶ聲がするのです。それに牽かれて、思はず知らずフツツ一步踏み出します、その途端に、今度は此方から、「あゝこれだ」こいふ叫び聲が出て來るでせう。

ものゝ極意ごくいをこくあつさり言つて見れば、何でもいゝから、一つ思ひ切つてぶつかかる事です。思ひ切つて眼をつぶつてぶつかれば、ぶつかつてから眼を開いて見れば、必ず何か手懸りが見つかるものです。それを繰り返してゐるうちに、ものゝ呼吸が解つて來ます。そうなればもうしめたもので、それから先きは、ぎん／＼カスを捨てるこゝが出來ます。いや、カスばかりではありません。自分の最上と思ふものでも、思ひ切つてそれを捨てるこゝ、もつミ良いものが得られるのです。

これがものに臨んで見透しのついた氣持です。幾千幾萬の起り得べきあらゆる場合を、ぎん／＼／＼／＼振り分けて、たつた一つの要を掴つかんだ氣持です。出來上つた結果からその經路を理窟で言へば、失敗すべきあらゆる場合をぎん／＼取り除けたたつた一筋の狭い道です。又これから起るべきものに面を向つた氣持から言へば、これより他に往く道がないこゝ

いふ事が、解つてゐるこいふ氣持です。

右に述べた事を一括して見れば、「人間ミは何ぞや」こいふ問ひに對する答へになつてゐる筈です。子供の繪の話をするのに、何故に人間ミいふ大きい問題を持ち出したかこ言ひますこ、實は繪ミ言つても、人間ミ言つても、又は道ミ言つても、つまりは同じ事であるからです。

この點を明らかにするために、次に「自然ミいふ問題を新たに持ち出して、考へて見ませう。一言で言つてしまへば、自然ミ言ふものは、人間の修業の機關だこ考へたらいゝでせう。自然は謂はゞ大きな幻影であり、素材であり、人間ミ不即不離の關係に立つ模型のやうなものです。それですから、實は有つて無いものなのです。たゞ人間がそれにぶつかつて行く稽古臺にする時だけ、自然が活きて來るのです。この人間の稽古の仕方にもいろ／＼ありますが、その何れにしても、自然ミいふものは思ひ餘つて困つてゐる時の人間の道場であるこいふ事には間違ひはありません。

次に若い登山家の話を紹介しませう——「山に登る人は、山の氣に合せて氣息を正し、山の狀勢に合せて體の動きを正さなければならぬ。けわしい石道を登る時は、坂の一つ／＼の石に従つて、それに調子を合せて體の調子を取りながら、足許を見詰めて一歩々々を確實に眞剣に踏みしめて行く。この點に山に登る人の全生命が懸つてゐる。要するに、山に従へば従ふべき人の行路が樂になる。山の美しさは、この苦行の完成を織り込んだ想ひ出さして、家に歸つてからしみ／＼ミ噛みしめるやうにして味はへるものである。つまり登山の全體の味は、山にひれ伏す氣持にある。」

この現代の若い人の話の中に、實にいろ／＼のものが含まれてゐる事が解るでせう。自然を權威の世界、運命の世界ミして考へる事がその(一)です。自然を視界ミして、向うに見える美しいものミして考へるこがその(二)です。自然を科學

的原理の世界として、物質の法則の世界として考へる事がその(三)です。自然を天地の道理として、人間性を解脱する道として考へるこゝがその(四)です。

〔第一の考へ方〕は、原始人や古代人の持つやうな素朴な歸依・崇拜の氣持です。たゞて言へば、到底人間には持ち切れない。見廻はし切れもしない寶物藏に入つたやうなもので、見るだけでも眼が眩むほごですから、勿論手にも取られないし、觸る事すら出来ないでせう。この壓倒された氣持、解釋し切れなさの充滿から來る思ひ餘つた氣持のたつた一つのはげ口は、自然を人間生活の兆を見て、ひれ伏してそれに縋りつくより他に道がないでせう。

〔第二の考へ方〕は、近代人が繪のやうに自然を鑑賞する氣持で、自然を藝術的に即ち文化の一部と見、自然を生命と考へ、人間と共に呼吸するものとして感ずるのです。この見方は飽くまでも人間が主人公であつて、自然を人間化する立場です。しかし一方に於て、人間が思ひ餘つて自然を禮讃する原始時代からの癖がやはり残つて居ります。それですから、さうかするに、人間が主人公になり切れずに、困つた時の暗示として自然に對します。かうして絶えず自然から何かを取りながら、絶えず自然を變化してゐるのです。自然は人間によつて生かされてゐながら、又人間を生かす道にもなつてゐるのです。畫家が作品のモデルとして自然を見るのもこの氣持です。

〔第三の考へ方〕は、自然を科學的文化の模型と見る事で、自然はこの場合には物質と言ふ事になります。それですから、自然科學と言ふのは物質科學と言ふ意味なのです。この考へ方は、一旦は自然を視界や聽界とする立場を取つて、色や音と言ふやうな物の性質を手懸りにするのですけれども、すぐそれを離れて、色に應ずる電磁波の振動とか、音に應ずる空氣の分子の振動とか言ふ科學上の原理を捕へ、波動の法則を自あてにします。次にこの二つの立場を比較して見ませう。

色は具體的に眼に見えてゐますけれども、波動は眼で見られません、たゞ原理として考へられるだけです。又音は具體的

に耳に聽えて來ますけれども、波動は耳で聽かれませんが、たゞ原理として考へられるだけです。色や音ばかりではありません。此考へ方は、一旦は降る雨、落ちる木の實、水の渦巻き、雪のなだれ、枝と枝の摩擦、物と物の衝突などを手懸りにしますけれども、すぐさう言ふ視界を離れて、力の原理や運動の法則を考へます。かう言ふ物質の原理、物質の法則の世界が、自然科學と言ふ自然と言ふ事なのです。人間の身體の活動も、やはり此様な法則の世界の一つの例になります。

それですから、人は一方で味ふ人として具體的に自然の色を見、動きを見てゐるのですけれども、他方では自然科學として、抽象的に波動の法則や力や運動の法則を考へてゐるのです。此考へる方の態度が勝てば、物理學者や化學者等の立場になり、科學の法則の現はれしめての自然物質に對する事になります。もし眺める方の態度が主になれば、右に第二の考へ方で述べたやうに、畫家や彫刻家の立場になり、視界としての自然、作品のモデルとしての自然に對する事になります。

この二つの態度を一身に乗ね、二つの世界を際ぎい一點で支えて統一してゐるのは工藝家でせう。工藝家は、材料としての自然物、たゞは金・石・土・木などと言ふやうな物質の形態・色彩・運動などを眺めると共に、さう言ふ材料の原子的化合、分解の原理、即ち材料を加工して變化する法則を考へ、材料と作意を一如一體のものごします。工藝品はこのやうに自然と人間の合一によつて生れ、この合一によつて材料と作意が共に活き、自然の秘を發いて人間が自由に新しい構造を組み立てる所に——もし自然を本位として考へるなら、この構成は再構成であると言つていゝでせう——生命があるのです。そしてこの合一が作者の體・作者の手によつて爲し遂げられる事が、工藝に於て特に眼立ちます。随つてわざと技巧か技巧と言ふ事が、繪のやうな藝術と較べて、工藝の特色となつてゐると言つていゝでせう。繪などでは、作意と技巧との間に相當の距離があつて、所謂無技巧の魅力なきと言ふ事が考へられないでもありません。工藝ではこの距離が近いのです。最も近いのは體の藝術としての踊りや劇でせう。今一端に繪を、中間に工藝を、他端に踊りを置いて、この

三つを較べて見ますと、繪から工藝へ、工藝から踊りへ移るに従つて、藝と技巧との關係が追々に直接的になり、技巧のごまかしが追々に利かなくなり、藝のよしあしが追々に剥き出しに成つて來る事が解ります。

踊りばかりではありません、工藝にしてもやはり體が大切なのです。この點から技巧の問題を、工藝の立場から申して見ませう。技巧と言ふ事は、工藝家の體や手を中心として、材料に従ひながら作意を活かす事であると言つていゝでせう。たゞへば陶工は體を以つて手を以つて、土に従ひ、ロクロに従ひ、釉藥に従ひ、火に従ひながら、作意を活かします。材料に従ふと言ふは、體を以つて自然の中に入り切る事です、自然にぶつかると、自然と取り組む事です。それですから、時には自然の威力により、材料自身の法則によつて、作家が豫期しなかつた技巧が生れることがあります。之は謂はゞ大自然の技巧であり、無意識の技巧です。此無爲の技巧から、作意に新しい作意が恵まれる事が珍らしくありません。此點から工藝は、自然(即ち物質の法則)を作家の作意の思ひ餘つた時の手本とする代表的ものであると言つていゝでせう。

〔第四の考へ方〕は、昔の支那の哲人や道士が修業したやうに、人々自然との合一と言ふ境地です。これは、人間を自然の一部と見る事、人が自然の中に入り切る事です。人間を抜け出して、その同根同元の自然に復歸すると言ふ事になります。人が自然と同じ呼吸をします。人の氣持が思ひ餘つた場合には、文化を捨てるとより他に道がありません。捨てるには、文化と對立した自然に歸るより他に道がありません。歸れば眼界が新たに開けて來るでせう、自然は人間を離れる道場ですから……

人間の文化を離れて自然と合體するにしても、この考へ方にいろ／＼の階段があります。初めの階段は、人間が自然と言ふ道場に入るつもりでも、入り切れない場合です。入り切れないと言ふのは、一人の人が二た役を勤めるからです。一方で人間が自然と合體して自然の中に入つてゐるのですが、他方でそれをその同じ人間が眺める氣持です。たゞへば、雄

大な景色の中に人物が小さく點出されてゐて、その畫面をその人物が更らに此方から見てゐるやうなもので、自然の中に入つてゐる事についての反省があります。それですから、この場合の自然は、實は文化を裏打ちした自然です。人間のなつかしさや親しみや愛や熱情が斷滅されてゐるやうに見えて、實は絲を牽いて残つてゐます。人間を離れたものに對する一種のあたゝかい人間的の憧れです。この氣持がものゝあはれです。人間を捨てゝも捨て切れない思ひやりが、何處もなく通つてゐるのです。寂莫、虛無、幽玄、その中に人間らしさが毛細管のやうに泌み透り、滲み出してゐます。この心憶が、さびやわびの氣持です。文學の方の自然觀は、大抵この階段に屬するものと言つていゝでせう。美は統一と言ふ事であり、藝術觀は結局この人間的統一に立脚しますから、この意味の氣持のまごまりが、非人間的であるべき自然の隅々にまで泌み通ります。それですから、かう言ふ人間を離脱したやうに見えてゐる氣持には、やはり神經質な所があつて、つゝましやかな心づかひ、アラを出すまいとする周到さが匂つてゐます。又自分のした跡を一々顧みて片付けようとする理に詰んだものが感ぜられます。さうしても無心になり切れないからです、思ひ切つて自然を同化し切れないからです。

次の階段は、文化の反對のものとしての自然、即ち原始と言ふ事です。つまり、文化の度が少ないほご自然に近づく原始になると言ふ考へ方です。この文化の反對を言ひ現はすために、よく自然復歸と言ふ句が用ゐられますけれども、これは決して原始人を手本にすると言ふ意味ではありません。文化人としては明瞭に尻尾を出してゐる點に於て、時代の生活を超脱してゐると言ふ境地なのです。又、文化をカスミ見て、顯智即ち道を濁す所の文化を捨てる。この氣持を、生物學的本能を考へる事は禁物です。文化によつて濁された顯智を、一旦磨いて鋭くして、しかもそれを忘れるのが、この原始即ち自然復歸の根本の氣持です。

「自然は人間の道場ですから、この氣持を握りしめるためには、文化人としては、相當苦しい修業が必要です。この修業



によつて、意識から無我・忘我へ、反省から無反省へ、成心から無心・初心・童心へ、複雑から單純へ、感情から素朴へ、小心・熟慮から放膽・暢氣へ——こゝでかう言ふ字句をいくら書いても切りがありません。問題は字句の美しさにあるのではなく、この意味の自然と言ふ心境に達する人間の修業にあるからです。

原始と言つても、初めからの無文化なのではありません。一旦文化を通り越して、その文化を捨てるのが、この意味の自然なのです。たゞへば、御覽の通りちやんと言ふ遺言狀が書いてある、何時でも死ぬると言ふ虚無・恬淡の心境なんです、生きてゐてしかもカスの文化を離脱してゐる點に於ても自然なのです。何事も荒削り、手許ががら明きであり、開けつひろげで、大ざつばで、線が太く、ものをつゝばなした所があり、こま／＼した世間の義理や人情にこだわらない、ものに捕はれない、執着がないと言ふ氣持です。しかし文化のカスを捨てた穎智がやはり何處かに匂ひ、忘れたものゝあはれがやはり何處かに隠れてゐて、抜けられないものがあり、何と言つても何處かに巧まない巧みが見えます。これがよく現はれた場合が、折れる・碎けると言ふ人間の味であり、わるく現はれた場合が、あきらめの氣持です。

第三の階段は、文化の否定としての自然です。文化の反對の原始では、まだ／＼生ぬるいからです。否定に反對とは違ひます。たゞへば、白の反對は黒で、中間に鼠色がありますが、白の否定は非白で、中間に何もありません。生の否定が即ち死で中間のないやうに、文化の否定としての自然と言ふ事です。人間の修業にはいろいろの道があるでせう。随つて世間の人は、それ／＼前人の修業の眞似をする事が出来るでせう。しかしこの意味の自然、即ち生を否定し文化を否定する事によつて、人間性を脱却する修業の立場には、恐らくは滅多に追従者がないでせう。しかも問題の中心點は、この追従者のなさうな所に、生死の間の髮の毛一筋の所に、この氣合ひに、懸つてゐるのです。

道に入るのはいい事なんです。しかし入りつ切りで抜け出る事を知らない人には、この氣合ひは解らないでせう。これ

は、たゞへば死地に入り切つた塗端に生を掴む呼吸です。何ミなれば、ものが終つた時が、新しいものが始まる時なんですから。これは不可能の一瞬を掴んで可能ミし、否定の一刹那を捕へて肯定にする捨て身の態度です。人間の文化を捨てると言ふのは、もごく文化はカスですから、しかも總てを知り盡してゐるのですから、捨てるのです。しかもその捨てた瞬間に何かを掴むのです。これまで人間が到達した型ミ言ふ型、あらゆる型を破り盡すのですが、その代り、どんなものにもなれる大道を掴んでゐるんです。この大道は至道無爲で、何にもしてゐないやうなんです、この虚無の一點に立つ言ふ事は、實は無盡藏の大きな世界を控えてゐる事なんです。かうした道は、道の道であり、言葉では何ミも現はしやうがないんですが、永劫の道であり、嚴しい・正しい・肅然たるものなのです。

この大道から見れば、愛ミ憎み、之はもごく一つのものです。大きい、強い、廣い、深い、荒つばい——さう言ふ片つ方だけのものを握りしめてゐて、それが何になるでせう。輕妙・洒脫・滑稽・何ミ言ふ間の抜けた氣持でせう。機智・諷刺・ユーモア、何ミ言ふ狭い路でせう。ものの哀れ、ものの哀れに浸り込んでゐてさうします。さびやわび、何時迄もそれに懸り合つてゐたら何ミ言ふセンチメンタルな氣持になつてしまふ事だせう。ものを掴む、夫は掴んで放す刹那の味です。ものが解る、もし解り切りになつてゐたら腐つてしまひます。何故すぐそれを捨て、次のものに飛びつかないんです。

天地ミ冥合し、宇宙ミ合體し、自然ミ一加ミなる、文辭は堂々たるものですが、要するに、それは、文化の否定ミしての自然ミ言ふ事です。死に入つて生を掴む人間離脱の氣合ひです。人間修業の立場ミしては、考へ方の徹底さから言つて、これ位深刻な——深刻ミ言ふよりも、もの凄い、冷酷な、無殘な立場はないでせう。しかし透徹すれば、さうしても、これまで來なければならぬのです。

# 兒童心理學文獻抄

十三

牛 島 義 友

## 子供の考へ方

子供は小さい大人でない云ふ言葉は子供の考へ方の特色を考へる場合に最もよく當嵌まる。子供には大人と違つた彼等独自の考へ方、物の見方がある。之に就て最も深い理解をなしたものはピアジ (Jean Piaget 1897) である。

彼はジュネーヴのルソー研究所に於て獨創的な方法で兒童の心性に就ての研究を始め、二十六歳の時に「兒童の言語と思维」(一九二三年)を著して以來引きつゞき「兒童の判斷と推理」(一九二四年)「兒童の世界觀」(一九二六年)「兒童の物的因果觀」(一九二八年)「兒童の道德意識」(一九三一年)の大著を著した。彼は現代の最も優れた獨創的な兒童研究者である。以上の諸著は既に英譯されて居り、我邦に

於ては波多野完治氏が紹介をされて居る。

波多野完治、兒童心理學 昭和六年

同 兒童の自然觀、教科學第十册 昭和七年

彼の研究法は臨牀法と云つて居るが從來の兒童研究法は主として觀察法かテスト法でなされて居たが斯る方法では子供の心理を間接に推察する丈で子供の心に直接觸れる事は出来ない。故に彼は子供の心理に適した質問を發しそれに對する答を更に問ひつめる事によつて即ち會話法に依て彼等の心裡を知らんことを欲した。その結果は前述の書の題目にても知らるゝ如く多方面に互り、子供の心性の特色として發見し得た原理も一、二に止まらない。今此處ではピアジの主要なる研究の一つたる左記の書を紹介する事とする。

## 子供のリアリズム、(實念論)

子供には内界と外界との區別が出来て居ない。心の中のものとの區別が出来る爲には自我意識が出来上つて居なければならぬが、之は子供には極く徐々にしか發達しないものである。子供には内的のものから主觀的なものはまだ存在しない。之を色々な點から説明して見よう。

一、心的のもの、物的なもの考へるさいふ働らきは吾々は純心理的な現象を考へるが子供はさうでない。シュテルンの四歳になる子供は思考を音聲を混同して人は口で舌で考へるのだと云つたといふ事であるが、ピアジェは四歳から十六歳迄の六十名の子供に「人は何で考へますか」「考へを見たり、觸れたりする事が出来ますか」「尋ねた所、色々な答を得、而も發達的にその答が相違して居る。

第一期(七歳以下)口で考へることを云ふ時代である。或る六歳の子供は「他の動物も口で考へるが、馬は耳で考へる。何

故なら馬は人の云ふ事を耳で聞けれど物を云はぬから」を答へ、或ひは「口を閉ぢてゐて考へる事が出来ますか」に對して「出来ません」を答へてゐるが、「では口を閉ぢてお母様の事を考へて御覽。考へられますか」を尋ねるに「出来ました」を答へた。「では何で考へましたか」を問ひ詰めるに矢張「口で」を答へてゐる。故に問ひ詰めるに矛盾した事を云ふが口に角口で考へるものだと云つて居り、此の考へる間の違ひや矛盾には氣付いてゐない状態である。

第二期(七歳乃至十一、二歳) 頭で考へることを云ふ時代である。而し此の考への中にもまだ前期の物質的性質が残つてゐて、「頭の中の小さな聲で考へます」を同様に「小さな口で考へます」を云つた様な事を云ひ、考へに觸れたり見たりする事は出来ないが、口から出た時には指で感ずる事が出来る、即ち聲を以て現はれて來る息を考へ、同一視して居るのである。

第三期(十一歳以後) 此の頃になるに以上の様に物質化される事がなくなつて普通の大人と同じになつて來る。

一、夢は内部のもの、外部のものとの混同を最もよく

示して居る。即ち「夢はここから来るか」、「夢を見てゐる間夢はどこにあるか」等の問ひに對し。

第一期(八歳以下)夢は外部から来るを考へてゐる。即ち夢は夜中に寢床の周りに動いてゐる、ミカ夢は小さな繪であるミカ、小さなラムプであるミカ答へたり、或は月が送つてくれるものミカ、雲ミカ太陽ミカ風が起すものミカ考へるのが普通である。「何處にあるか」ミカいふ問に對しては室の中、ミカ自分の前ミカ答へる、心理學者サリーの娘も「此の室は夢で一杯です」ミカ同じ様に答へてゐる。併しやがて子供は夢の中の出來事が現實に起つてゐない事を知り、夢は夢幻的なものである事が判つてくる。併し尙一個の繪から成るを考へ、而も外部に在るを考へてゐる。「もし夢が頭の中にあるならば見る事が出來ないではありませんか。私が夢の中にゐるのであつて夢が私の中にあるのではない」と云ふ。

第二期(九乃至十歳)此の頃になるミカ夢は頭から来る、自分の中から来るを云ふ風に考へる。夢は吾々が何か考へる時に現はれて来る、「目醒めてゐる時は夢は頭の中にあり、寢るミカ外に出て来るのだ」と云つて、空氣や煙の様なものミカ

考へてゐる。

第三期(十一歳以後)「夢は私の前にあつて私が何か見てゐる様であるが、併しそこには實際は何もないのです」ミカ極尤もな答をなす。

三、名前物ミカその名前に就ても尙同様であつて小さい子供は未だ之を區別して居らず名前は物から生じたものであつて物を作つた人が名前も同時に作つたを考へてゐる。十歳以上の子供であるミカ、名前は私の頭にあるミカ口の中にあるミカ云ふが、小さい子供は物の中にあるを答へる。例へば「太陽の名は太陽の中にある」ミカし、之は名前が太陽の上に書いてあるを云ふのでなく、太陽の重要な一部分であるを考へてゐるのである。「太陽は丸くて熱いから太陽を云ふのです」。

四、月の動き子供はおてんこ様や月は子供に従つて動いて居るを考へてゐる。四歳の子供に誰が太陽を動かしますかミカ聞いた所、「私が歩く時に私が動かすのです」ミカ「太陽を動かすのは私です」ミカ云ひ、自分に太陽を動かす力があるを信じてゐる。少し大きくなるミ子供が動かすものでは

なく、太陽や月自からがついて来るを考へる。即ち月は生きてゐて子供を守り、子供に道を教へる爲に追かけて来るを主張する。此の様に子供の感じた動きを實際の動きを混同してしまつてゐる。

以上の諸例によつて説明される様に子供は精神的のもの、物質的のもの、自分の中にあるもの、此外にあるものとの區別がなく、すべてが物的のもの、存在のもの、考へられて居る。此の意味で子供の考へる特色はリアリズムであるを云へる。

併し此の物的を云ふ意味は唯物的のいふ意味でなく、寧ろその反對にすべてのものが生きて居る、生命のあるものを擧げられてゐるのであつて、第二の特徴としてアニミズムを擧げる事が出来る。

#### 子供のアニミズム(汎心論)

子供は事物を生きてゐるもの、意識するものを考へてゐる。例へば机は生きてゐるか否か、自分のなす事を知つてゐるか、刺戟を感じる事が出来るか等を探ねるに多くは肯定的な答をする。

#### 一、生きてゐるをいふ言葉の意味

第一期(六歳以下)すべての物は生きてゐるを考へる。而も彼等は人間中心的の考へ方をして人間に役に立つものは生きてゐるを考へる。例へば太陽は光を與へるから生きて居り、風は木を動かすから生きて居り、湖水は舟を運ぶ事が出来るから生きてゐるを云ふ。

第二期(七歳迄)少しく大きくなるに動くものの方が生きてゐるもの、動かないものは生命のないもの、死んだものを考へる。故に太陽、月、雲、水、火、自動車、エンジンに生きてゐるものを考へるが、机、山、石は死んでゐるものを云ふ。

第三期(八歳乃至十歳迄)次には同じ動くものでも自分で動くもののみが生きて居る。他から影響されて動くものは生命のないものと區別する様になる。故に太陽、月、風は尙生きてゐるものであるが、雲は機械にはもう生命を認め得ない。

第四期(十一歳以上)今度は動植物のみに生命を認め、或ひは動物のみを生きてゐるものを感ずる様になつて來

る。

二、意識 之に就ても前と同じ過程を経て考へが變つて来る。例へば九歳の子供に「雲は自から動いてゐるのを知つてゐるか」を聞く「知らない、何故なら風が押してゐるから」云ふ。「では風は自から動いてゐるのを氣付くか」に對してはそれは知つてゐる。自分で吹いてゐるから」云ふ。即ち前の第三期の考へ方に應じた説明をしてゐる。又他の子供は「月は勿論自分の動いてゐる事を知つてゐます。さうでなければ毎晩歸つて来る事が出来やしない。斯く子供はすべてのものに生命を認めてゐる。

その他物の起源に就て子供はよく興味を以て質問する。太陽は誰が作つたかか雲は如何して出来たかか尋ねるが、子供自身の答を聞く人間が作つたを考へる。或る六歳の子供は「太陽は或る偉い人が作つた大きな丸い石である」を答へ、如何してそれが空の中にあるのかを尋ねた所「その人が空に投げたからだ」を答へた。即ち人が作つたを云ふ人工論をもう一つの特色として居る。

此の人間を中心とした見方は更に自分を中心とした見方

をいふ方が適切である。

例へば月が動くのは自分達が悪い事をせぬかを見守つてゐるのだを考へたり、夜になつて雲が出て来るのは子供が寝る事が出来る爲であるを考へる。即ち子供には自己中心性が他の特色であるとして居る。此の自己中心性は子供の社會生活や言語なんかに明瞭に出てゐる。例へば子供は獨言をよく云ふ。その他對手を問題としない社會的な言語は社會的言語(報告、命令、非難)に較べて割合に多い。即ち三歳から五歳位の子供には非社會的な言葉が全言語の中の五七乃至六十%を占め、六、七歳になるに四十四乃至四十七%に減じて居る。同じく社會的言語を見てもその中に自己中心性が現はれて居る。例へば言ひ合ひをする場合彼等は「さうだ」か「さうでない」を言ふ丈でその理由を擧げる事は殆どない。即ち斯る會話に於ても單に自己を主張するに止まつて對手に納得さすまい事をしない。

# 臺灣幼兒保育について

## 保育大會に於ける研究發表

本稿は去る十一月一、二日に、臺北に於て開催せられました全國保育大會に於ける研究發表の一部であります。内地に住む私共が彼地の保育の様子を知り度いと思つてゐ乍らついでその機會を得ずになり勝ちですのでパンフレットをお送りいたしましたのを幸ひ、こゝに轉載させていただきます。 (編輯者)

始政四十年の星霜を経て築き上げられた現臺灣の文化は非常な發展をなし、殖産興業と云ひ教育の施設といひ交通其他各方面に於ても素晴しく進歩充實して來た事は、誠に慶賀にたえない次第である。

私共教育當事者として教育方面を眺むるに、下は多數の小公學校より男女中等學校實業學校及び専門學校は勿論、上は大學に至る迄も設置せられて誠に喜ばしい事である。

然し唯一つ遺憾に思はれるのは當市の幼稚園は悉く私立の手に委ねられてゐるので、自然經費不十分にして設備其他に不備の點が多い。これは麗はしい文化の誇りを有つ臺灣として誠に物足らぬ感が深いのである。

顧みれば十數年前の當市に於ける幼稚園は僅かに臺北、愛育、の二園で幼兒數も少なく殊に本島兒の希望者も僅少

であり、社會が幼稚園に對する理解を持つ人も少ない有様であつた。然るにそれより數年にして各方面より幼稚園の必要を痛切に認められ、こゝに大正、樹心の二園が相前後して設立せらるゝに至つた。當時四園の保姆が保姆會を開き保育研究をして居つた。

それより本島の文化は日と共に進歩著しく幼兒の入園希望者も増加するに至り年々幼稚園は各所に新設せられ現在にては當市に十一の幼稚園がある。其内八園は内臺幼兒を保育し三園は本島幼兒を保育して居る。従つて保姆會々員も増加するにつれて名稱も臺北市保育會と改め益々保育の研究に努めて居る。尙ほ數年來保姆の向上進歩を計る爲め、臺灣教育會の御援助を仰ぎ、内地の講習會に保姆を派



遣し其都度島内の参加希望者をも併せて、内地に於ける講習の發表會を兼ねて講習會を開催して本島幼児保育の考究に資してゐる。

近年本島人の家庭が我が國體の精華を漸次認識するに共に、次第に教育方面にも目覺め、其の結果内地人幼稚園に入園を希望する本島人幼児數も次第に増加するに至つた。これは誠に喜ぶべき現象であるが、併し内地人全く生活環境を異にする本島人を收容し、内臺保育を行ふさいふことは至難事である。而し本島にある幼稚園としては最も大切なことである。その效果の最善を期する爲めには將來尙大いに研究の餘地がある。私共の經驗した事を左に述べ度いと思ふ。

### 一、内地人幼児の幼稚園へ入園

#### 志望の理由

内地人幼児の家庭は官吏、商人等割合に多い爲に家庭が多忙で概して若き父母が多い様である。

- 1 家庭教育を補ひ從順にして快活なるため。
- 2 健康を増進し偏食及び間食の矯正をするため。

- 3 共同生活により氣儘の矯正をしたため。

入園希望の内地人幼児は健康狀態を調査して入園せしむ。

### 二、本島人が内地人幼児を主とせる

#### 幼稚園へ入園を志望する理由

内臺共學制の實施せられたるは大正九年にして、それと共に小學校は勿論幼稚園にも入園希望者が日を追つて増加して來たのである。左に其理由を摘記すれば

- 1 幼稚園を單に小學校の準備をなす所と考ふるもの。
- 2 將來小學校に共學を希望し進んで上級學校に迄入學せしむる準備のためと考ふるもの。
- 3 實際生活の上に國語の必要を認め且つ内地人と同等地位に生活せしめんとして行儀作法を習ひたきもの。

### 三、如何なる本島人幼児を入園せしむるか

現在に於ては保育上の効果を考慮し全幼児の約四分の一を限度とし(但し内地人に對する十分の一位の本島人幼児を取扱ひつゝある幼稚園もある)左の諸項を考查し是れに

該當するものを入園許可してゐる。

1 會話によりて幼児の國語常用の程度を試す。

イ、保姆の言語を解するもの。

ロ、日常使用せるもの、名稱自己の姓名等を答ふる者

2 保護者の修養程度。

イ、父母何れか國語を話し得るもの。

ロ、保護者はなるべく教養あるもの。

3 志望の理由正しきもの。

4 幼児の健康状態調査をする。

#### 四、内臺幼児の幼稚園に於ける状態

について

1 内臺兒自由遊びの際等に動もすれば内地人幼児は優

越感を持ち、本島兒に對して差別待遇をなすことあり

斯かる場合には次記の如き弊害を伴ふことあり。

イ、本島兒は自ら本島兒同志寄り集りて臺灣語にて話

し合ふ。

ロ、從順さを缺く。

ハ、保姆の問ひに對して答へない。

2 内地兒は無邪氣にして快活なるもの多し。

3 内地兒は割合に社交性に富み人に馴易し。

4 本島兒はよく保姆を信頼する。

5 本島兒は内地化を欣ぶ。

6 本島兒は團體的觀念薄し。

7 本島兒は衛生的觀念薄し。

8 本島兒は一般に國語の發音惡しきもの多く殊に「て

にをは」の使用を誤るものあり。

9 本島兒は遊び方動もすれば粗暴に傾き易し。

#### 五、内臺保育の實際状態について

幼兒保育の効果は單に幼稚園に於ける保育のみにては充

分なることを得ず。故に幼稚園と家庭とは常に密接なる連

絡を取りて幼兒の心身性情に注意し、其健全なる發育を計

ることを要す。現在執りつゝあるこれ等の關係を示せば次

の如し。

1 保護者に對して

イ、幼兒の入園と共に保護者に對して幼稚園の目的、

即ち幼兒の心身の健全なる發育に努め善良なる性情

を養ひ家庭教育を補ふ所なることを理解させる。

ロ、特に本島兒保護者に對しては幼稚園は小學校入學の準備教育をなさぬことを充分に理解させる。

ハ、凡ての生活特に禮儀作法等内地風になす事を知らしめ、家庭にての實行を奨める。

## 2 保姆として

イ、保育者の人格と素養は幼兒の心情に至大の影響を及ぼすを以て、常に修養に努めること。

ロ、幼兒の發達狀態を觀察し個性的指導を忘れない事  
ハ、保姆は常に内臺幼兒の融和に努め相互に差別的取扱ひをなさぬ事。

ニ、智的に偏せざるやう常に心情陶冶に努め良習慣の養成に精進すること。

ホ、保姆は正しき發音に注意し、常に機會を捕捉し國語の對話によりて幼兒を指導し、自然に國語に習熟せしむること。

ヘ、環境に注意し園内の整理整頓裝飾に努むること。

ト、自然界との接觸を多くし幼兒をして大自然の恩恵

に感謝の念を持たしむること。

## 3 幼兒に對して

1、國民精神の基礎を培養する事。

一、皇室及び國家に對して絶對尊崇の念を養ふ事。

一、國旗國歌に對する禮儀を知らせる。

一、忠孝の道を知らせる。

一、敬神敬佛の念を養ふこと。

一、祖先を崇拜する事。

一、愛國愛郷の精神を涵養する事。

ロ、内地兒に對しては本島兒との圓滿なる交友に努め且つ良き模範を示す様に取扱ふ。

ハ、幼兒の衛生即ち清潔容姿整頓の習慣を養ふ。

ニ、公德心の養成に努む。

ホ、禮儀作法並びに言葉遣ひに注意す。

ヘ、依頼心を避け勤勞を喜ぶ習慣を養ふ。

## 4 保育の各項目について

A 幼兒の生活の中より題材を選ぶ様にする。

B 時候及び社會の行事を取入れる様にする。

## イ、唱歌

C 郷土的資料を取り入るゝ事。

D 歌曲は明朗にして野卑に渡らぬもの。

唱歌は始め歌詞を何回もお話の如く言はしめ、言葉を了解せしめて後に曲と共に合唱し毎日繰り返し歌はせる。若し自由遊び等の時誤り歌ふ様なる時には訂正をする。

## ロ、遊戯

A 身體各部の適當なる運動によりて心身の調和發達をなし得るもの。

B なるべくリズム的に取扱ひ快活にして興味を誘導し得るもの。

C 團體遊戯により協同精神を養ふと共に公德心を起さしむる様に導くこと。

遊戯は既知の唱歌に動作を付けたるものを選び内地兒の間々に本島兒を配置して互ひに親しみを持たせる。

## ハ、談話

A 幼兒の精神の發達に適したるもの。

B 興味あるもの。

C 心情を陶冶するに足るもの。

D 慘酷恐怖の材料を取らぬこと。

談話は内地兒は非常に興味を持つに反し本島兒は餘り興

味を持たない。かゝる場合は内容を充分理解するやう始めは繪解により次は會話により話し方に馴れしめ、最も平易なる童話に及ぼし遂に識らずくの間に興味を持つ様に導く。

## ニ、觀察

A 單に觀察科として取扱はず凡ての保育項目に渡つて出来るだけ實物の觀察を多くする。

B 實物に依らざる場合は模型標本繪畫等によりて觀察を補ふ。

尙園外保育によりて自然界人事界の觀察力を深くする。

以上の保育項目につきては何れも幼兒の年齢に適し理解し易きものを選ぶやうにする。

## 六、内臺幼兒を取扱ひ效果ありと

### 認めらるる事

現在内臺保育の利弊につきては未だ適確に云ひ難き最近に於ける保育の實際に於て顯著なる效果として認むべきものを擧ぐれば次の如し。

1 皇室に對する敬虔の念を深め愛國心を強くす。

2 内地兒は識らずくの間に本島兒と仲よく遊び内臺

の區別を認めざる様になる。

3 本島兒は追々國語に熟達し(家庭にても使用する者は著しく流暢なる)快活なる。

4 禮儀作法及び清潔整頓の習慣も自然の内に理解する

5 個人生活より團體生活の基を形成する。

三つ子の魂百までの言の如く幼兒時代より内臺融和をなし、日本國民精神の基礎を培養し以て善良なる國民を養成する事こそ、臺灣に於ける保育者の最も重大なる任務なる事を確信し、一層の努力を要する事を痛感するものである。

## 本島幼兒保育に就て

### 一、本島人幼稚園の目的と使命

本島に於ける國語普及に就いては、當局を始め識者の間で盛んに叫ばれつゝある問題である。

本島幼稚園施行規則中にも「國語ヲ常用セザル幼兒ヲ保育スル幼稚園ニ在リテハ、特ニ國語ノ話シ方ニ習熟セシムルコトニ留意スベシ」とある。幼稚園令第一條「幼稚園ハ幼兒ヲ保育シ其心身ヲ健全ニ發達セシメ、善良ナル性情ヲ涵

養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス」とある所からおして考ふるに、善良な性情の涵養は、國語に慣れしむる事によつて大に效果的に導く事が出来る。國語を解し得ない場合はそれが困難であつて、個人的生活にも社會的生活にも非常に支障を來す事が多い。

大人になつてからでは、今迄臺灣の傳統的な種々なる生活が浸み込んで居るために、急に改める事は困難である。然し幼兒時代から内地人の生活に親しませれば、苦もなく自然の裡に内臺融和が行はれ且國語にも慣れ易い。即ち

一、國語に慣れる事によつて優越感を有す。(世界一等国の國語を話し内地人の生活と同程度になる事は子供乍らも偉くなつた様に感じて)

二、日本精神の涵養なる(國語を話す事が出来ればそれによつて日本人の氣持ちに通ずる事が出来るから日本精神にも通ずる事が出来る)

國語習熟の爲に努力しつゝ保育する、保育しつゝ國語習熟を計る事が本島人幼稚園の使命であると思ふ。

### 二、國語の取扱ひ方

一、入園當初家庭調査により程度を知る。

二、簡単な國語（立つ、腰掛ける、歩く）等保姆は絶えず話して聞きなれさせす。

三、言葉を模倣させる特にラ行のラレロミダ行のダデドは誤り易いからはずきり發音が出来る様注意する。

四、日常生活に必要な擬聲語を發表せしめる様努力する。動物の鳴聲とか機械の音等は聞き様によつてちがふ。例へば犬は本島語ではワン／＼英語ではバアウバアウにも聞ゆるから犬の鳴聲ミ云へばすぐワン／＼ミ聞える様に矯正する。

五、感歎詞のアー奇麗、マーこわい、アラ泣いてる等、早く國語に慣れしめアイヨー等突飛な聲の出ない様にする。

六、保育項目の全般に互る事

#### △唱歌遊戯

イ、本島語で説明して觀念を傳へ言葉を正しく發音をたしかにして後曲に移る。慣れるに従つて歌詞を云はせ曲を耳に入れて後歌はせる。

ロ、歌ひ慣れるるを兎角間違つた歌詞になり易いから時時歌詞のみを云はせ正しい發音に導く。

ハ、時には簡単な歌詞を吹き込みたるレコードを聞き取らす事もある。

ニ、遊戯は言語と直接の關係なきも、動作により意味が一層解り又記憶を助ける。

#### △觀察

イ、園外保育其他實物を觀察させつゝ言葉も共に覺ゆる場合。

ロ、繪本（キンダーブック其他）掛圖、單畫等繪畫による場合。

掛圖、繪本はなるべく動的なものを選び、名詞と動詞を結びつけて話す様指導する事が大切である。動詞は應用がきゝ、思考力、推理力にも働きかけるから初期から織り込む。

單畫は實物材料の得難い物等用意しておくこよい。

#### △談話

イ、興味を起させ又あきない様に、繪本や掛圖を多く

用ひる。

ロ、日常用語の内容を理解さす爲には表情を多くする  
(手、足、聲等)

ハ、代表的な普話等は同じ語を何回も話す事によつて  
言葉にも慣れさせ遂には幼児自身が話す様に導く。

ニ、意味の解らない様な言葉は、よく解る様な子供に  
説明させる。

ホ、問答法によつて話させる。

ヘ、經驗談を断片的に發表させ、進むにつれてましま  
つた話にまで導く。

△恩物手技

イ、簡單なものの例へば折紙一枚でも色、形、名稱、動  
作等國語に慣れさせる。

ロ、作品によつて話させる。

七、自由遊びの(ま、ご、こ、こ、)人形遊び、カゴメ、鬼ごっこ、

兵隊ごっこ等の相手になり、自然的に會話の練習及發  
音に注意し矯正につとめる事。

○例 A 保母の模倣による習得

今日キンダーブックを配りました。持ち易い様にミクル  
クル巻いてしばつてあげましたので、子供達は大悦びで  
す。早速口にあてて「トテチテテター」……「先生僕兵隊  
さんよ」……「ミ云ふ子はまだおさなしい方で、中には嬉し  
さの發露がお互ひにおつむをボン／＼竹刀の積りでやつて  
居ます。其中「先生これ」……「泣き相な聲がします。行  
つて見るミ巻いてある繪本の上が一寸裂けてゐました。「破  
れたの?」……「ウン破れた」……此發表しかねてゐる言葉  
を補はれて、すっかり繪本の事も忘れて如何にも満足さう  
な面持ちをして居りました。

○例 B 自分からの發表による習得

お山が出来た、トンネルが、汽車が、公園が出来上つた  
時の満足さうな顔、純真な笑

「昨日雨が降りましたねー」

「先生虹見たよ」

「僕のお父さん雨ザア／＼頭死んだよ」

「アラさう……頭が痛くなつたんでせう」

「ふん」

知つて居る範圍内で如何に表現し様か、苦心して居る様子がうかがはれます。

### ○例C 質問による習得

急にバタ／＼ツミ靴音がして、しつかり手を握りしめた玉梅さんが駆けて來ました。

「先生、これなあに」

「ごーれ、ア、これね、カタツムリ」

「カタツムリ、カタツムリ面白いねー、カタツムリの着物丸いねー、お目々こんなに長いねー、臺灣語ロー

レイミ云ふのよ」

もう一度カタツムリミ云つて彼方に行つて仕舞ひました。  
(保母日誌より)

八、國家的行事を織り込んで資料を豊富にする事。

九、幼児自身國語を話さう／＼とする其氣配を利用して話す機會を作つてやる。

### 三、躰方

國語に關聯しての躰方をなし、折にふれて挨拶、禮儀、作法、整頓、清潔に慣れしめる。本島幼児の性行中一般的

に長所と思はるゝ點。

一、保母への信頼の念が強い。

二、自發的に内地化を悦ぶ。

三、事に臆しない。

短所と思はるゝ點。

一、買喰ひの習慣(社會環境の影響から來る)

二、依頼心が強い(家庭環境の影響から來る)

三、公共物を粗末にする(社會的な訓練がないから)

四、衛生觀念の程度が低い。

等である。保母としては常に長所をよく誘導して、短所を矯正する事が大切である。

### ○例 お辨當の時間

お晝食の鐘が鳴りました。ニコ／＼したお顔が手洗ひ場へ飛んで行きます。スベリ臺から、ブランコから、お砂場の中から。

お手洗ひの濟んだ子は自分のお辨當をかゝへてお部屋へお部屋へミ流れて行きます。

「さあ、御飯にしませう、お手も洗つてね」ミ云はれて、



あわて、洗ひに行く子もありません。間もなくオルガンのメロデーに子供等は嬉さを包んでのお眠り……静かな

「おあがんさい」……の聲を破るかの様に一齊に「いただきます」三元氣のよいお返し、同時に暖かいおいしさうなお辨當が開かれます。

臺灣では氣候の關係ミ米の質の爲、冷たい御飯は身體に毒だミ信じられてゐるものですから大人でも、子供でも冷たい御飯は絶対に喰べません。其爲お晝頃になりますミ家に歸つて晝食したり、家から持つて來たりしますので、幼稚園では朝登園の時自分で持つて來させるため、暖める設備をして居ります。

「お父様やお母様が、切角こしらへて下さつたお辨當を殘したりこぼしたりするミ一寸法師の様に小さい子供になつて仕舞ひますよ」……の注意も時々は必要です。

又一般に本島人の御家庭の食事ではお汁かけで流し込むか、おかゆをサラ／＼呑み込むかしなければ食べられない様な、習慣のついた子供があります。よく噛む事、間でガブ／＼お湯を呑まない事、御飯にかけない様に等、氣をつ

けなければなりません。

中には家庭では一人で喰べるミ遊び乍ら喰べて、折角の熱い御飯が冷めて身體に毒だからさか、おそいのを面倒がつて早くかたづけ度い大人の都合から、一人でたべ度い自發活動も厭へて仕舞つて、いつも／＼たべさせるので自分で食べる事が出来なくなつて居るお子さんが、時たまあが狭く恥かしくなつて、遂にはお友達に倣つて自分で食べる様になり、其事を悦んで來るお母さんがあります。

御飯が濟みますミ「御馳走様」の挨拶をして一人でかたづけお湯呑を持つて立ち、うがひをしてから遊びの中に飛び込んで行きます。  
(保姆日誌より)

以上は本島幼児保育についての大概であるが、それには一、心身の發達の程度及年齢等も考へて無理しない事。

二、幼稚園の保育ミ、公學校の教育ミ混合しない様、あくまでも保育でなくてはならぬ事。

三、家庭との連絡によつて向上を計る事。  
等は勿論云ふまでもなく大切な事である。

# 兒童の性格

安部 光 植

うちみたるころ、兒童は至つて平凡で、他愛ないもの、言はず不完全、未完成極まる生存のひみつこの可能的成長態をしか映じないであらう。しかし、そこには大人の自負の嬌慢がかくされてゐる。若しわれらにして、われらの自負の嬌慢を去り、養護者としての權勢を威冠を潔きよく脱ぎ取り、子供達への永い慣習を切り切つてゐる壓倒的態度を率直に退け、かつての兒童に對するあらゆる感慨をいまひとたび検討し、ひるがへつて白紙的眼光に信賴し、新たなレンズを通じて、兒童を眺め得たならば、かれらはいかなる姿態の活動の様相に於て現れ來るであらうか。換言すれば、兒童の眼ざし、行動、感情の動きを、その根本傾向がもつ自然のまゝに認識し、同情、同感、共鳴を通じて觀察するならば、われらはわれらの從來の兒童認識が、い

まや殆んど謬見の塊であつたを悟らないではゐられないであらう。而してひみはおそらく、兒童の世界が、以前とは全く異なる光によつて蓋はれ、かゞやいてゐる原型的兒童の姿をまのあたりに見出すであらう。本來の子供は自らを完全に楽しんで生活してゐる。かれらはつねに、自己を存在の中心に置いて、物事を観かつ感ずる性格者である。しかし子供のこの自己中心的意識乃至活動は單なる功利的自己中心性ではなく、かへつて、たゞひみつの存在としての彼に與へられたまゝの全體的の中に安住する自己中心性以外のなにもでもない。

兒童の注意は間斷なく移動する。彼は存在を自己に引き聚めるのみではなく、自己をあらゆる存在にくつゝける。自己をあらゆる存在に近づけるのである。自分をいたるところに持ち運んで、對象存在の眞性存在がまゝの性格を觀

察しようとする徹底的活動者、徹底的存在愛の具現者こそ、兒童そのものである。燭臺の蠟燭の光がその周邊を明るく照し、光の輝く場所は燭臺の移動と共に、照明の中心が移動する。そして周圍はなんの損傷も受けない。

子供はすべてのものが自分のために存し、自分を喜ばすために存するかのような如き態度を以て、周圍の存在に働きかけられるかに見える。ところが、この生ける蠟燭は自分を燃焼しつゝ、完全に自己を放射する。自己を決して隠蔽することなく、あらゆる存在の前に開示する。兒童は環境の中に自己を投げ込み、單に托してゐるのみである。子供は自己活動の所在、意識の對象を刻々變化する。子供は周圍的存在を刻々新たにして前進する自分を少しも悔ひようとはしない。火花を散らして周邊を照しつゝ、しかもなんらの未練なくそこを跳び去り、疾走し、亂舞する彗星の如き生活をして、寸刻も休みなくつゞけてゐる。いまこゝで土いぢりをしてゐると思へば、もう跳び去つて、向ふの杉並木の側を走つてゐる。しかも子供の心の素直さの實踐的表現に際しては、素早い曲線の圖式に於て示される。かれらの歩み、

跳びはねる線を追へば、明らかに直線の曲線である。林の中にもぐり込んだり、出たり、石拾ひを始めたり、ホンの少しのあい間でも千變萬化する。うつかりするに、私達はひきりの子供を二人にも三人にも見ないとも限らない眼まぐるしさである。

## 二

子供はおごろくべき活動力を持つてゐる。彼はいたるところに自分を發見する。しかも極めて必然的に、いたるところに自分を惜しみなく棄てゝゐる。行くところ自分を發見せざるはなく、去るところ自分を惜しみなく棄てざるはない。あらゆるものに關心をもつ魂は、また極めて容易に、あらゆるものへの執着をあつさり斥ける。部分に活きて全體を忘れず、一物に捉れて捉はれない生活の完全な遂行者こそ兒童そのものではないか。子供の注意は集中的であると同時に放散的である。集中的注意は次の瞬間には崩れて更に新たな活動若くは存在への放散的注意が始まる。放散が集中が交互に繰返されるところには一物に捉れ難い純客觀認識が成立する。しかもそこに特異な點は、對象に自分

の一切を投じて惜まず、かくすることによつて、対象の全機構を苦もなく印象づけられることである。自己を完全に解放するものは対象を十全に受納れ、根本から了解することができる。

子供の自己中心的生活は、まさに右の如き意味のうちに解釋すべきである。一つの場所、一つの物に注意して、しかも一處一物に捉れ難い注意のはたらきは、存在への功利的、無關心を實證するものと言はなくてはならぬ。それは部分に居て部分に居らぬものゝ振舞である。部分に居て全體を忘れぬ先驗的自覺存在の所作である。それは必然にして普遍的な行爲者の態度である。利害に生きないで純愛に生きるものゝ行爲である。かけひきを知らぬ子供は、全力、全注意を以て、瞬間から瞬間に飛躍する。弛みなき緊張さを以て活動する兒童の生活は、その瞬間々々が、まさに疑ひもなく創造的瞬間でなくてはならぬ。それは慣習や傳統の惰睡とは異つて焔ゆる魂の爆發である。蝴蝶が本能的に花から花へこ跳んで蜜の在處を觀る如く、兒童は対象の性向、本質、態度、傾動を不思議にも鋭く直觀する。この慧

智こそ實に超人間的慧智である。

### 三

兒童にして若しその行爲が、自己中心的存在らしく見えるならば、かく見做すは適意であらう。しかし最も個性的なるものこそ、最も普遍的、必然的のものでなくてはならぬ。子供の自己完全的生活は、大人に於ける排他的行動・利己的態度とは決して同一ではない。ひきは対象を利己混同し易い。これに對して兒童は全く純愛によつて萬物と連なる。兒童が対象に對する愛は、その純粹さに於て、たしかに天(普遍者)の、絕對的主觀の萬物に對する愛を象徴する。兒童はあらゆる存在のうちに自己をみ、人間界のいたるところに自分を見出さうと努力してゐる。子供は超有機的、生命のうちにはたらいてゐる。兒童は必然性も普遍性に活きてゐる。兒童の内的必然性も全體的存在の普遍性とは不思議によく調和する。存在に對する純愛がそこから生れる。ものを本當に愛し、直觀するところに、ものが微笑もて對せざるはない。隙間なき主客の内的結合は、自他の根源的同質性を直觀せしむる。対象のうちに自己發見をな

し得る可能性は、その故に兒童の魂の純粹性にもとづく。

偏見、邪心、先入主、功利的觀念——等は事物と事物の自然性を引き裂き、主客の間に打越え難き距離を置く。全體は消えて部分が注目され、部分を全體と假想した活動がもつばらになる。あらゆる存在をつなく本來の必然的・普遍的絲は斷切られて、宇宙は孤立的小宇宙の群像となり、人間は利害得失によつて雜然離合する。事物の純客觀的考察は衰へて、主觀に色彩られた第一次的客觀形象が呈示される。自他の間には幾重にも功利的柵がめぐらされ、人間が存在するだけそれだけ、無數の廣狹、厚薄の不透明な柵が交錯存在して、物の公平、正直な觀察は、救ひ難き破産に遭遇する。自他の所有物は厳しく限定せられ、利と偏愛の刃によつて事物の人為的限界が決定する。しかし、子供は、現在の複雑さの中に、かへつて清淡單純なる生活の營みを建設する。ひこの世の複雑さは、兒童には容易に理解でき難い或者である。

こゝに人間生活の殘餘性があり、純粹性がある。子供は大人の棄てゝ顧みない生存場所を嬉々として戯れ遊んでゐる。

子供は利害で濁つた海には棲みえない天魚である。こゝには全體が活き、超人間界が堂々現實してゐる。存在は各々自個を保つて、しかも全體と一つかりつながつてゐる。兒童は物をそのまゝに活かして觀る。一物に執著しない。萬物を忘れてゐるが萬物に愛されてゐる、萬物に執著しないものは、かへつて萬物みづから近づいてくる。萬物を愛するものは一物を偏愛しない。子供はあらゆる物にはたつきかけて、しかも萬物に居らない。故によくあらゆる對象を抱き、あらゆる對象に抱かれることができる。こゝに兒童生活の著しいひこの特徴がある。兒童の自己中心的生活は、固定的ではなくかへつて移動的であり、集約的ではなく開放的である。子供は一物、一處に專念して、日常的功利生活を築き上げる意識を落してゐる。一物に捉はれない對象への愛感、あらゆる事物に對して平等である。あらゆる事物への對等的感情は兒童性格の本質である。

兒童は事物に憎みを懷く以前に、素早くそれから飛び去る。こゝで以前に云ふ意味は、相對的ではなく、絕對的の意味に於てある。兒童は一物を愛するか、でなければ他の

一物を愛するのみ。憎みのこゝろは、まさに兒童の關知せざる世界である。その明瞭、純粹な精神に新鮮な觸覺は、子供をして憎みの對象を持ち得る隙を與へない。子供はすべてものに一樣、同仁である。大人の注意は固定し勝であるが、子供は絶えず活動する。活動力にすぐれた子供は、つねに新奇な對象を求めて止むまじがない。實生活的配慮の世界への徹底的批評者は一物、局部に捉はれる必要がない。同様に、子供もまた物を偏愛する動機を所有しない。すべてのものに對する平らかな愛しこゝにも兒童の性格を盛る決定的要素がある。本來の兒童は、いかなる事物に對しても敵意をもつものではない。己れを空しうして事物を觀且つはたらきかける者に、好き嫌ひのある譯はない。兒童の自己中心的生活は、世界を自己のうちに寫し、自己を世界に向つて開示する状態に於て、その真相が見出される。

#### 四

なん等著色されない無心さに於て、世界に對する生活者の一團に兒童が參加してゐる。かゝる精神態度は、一見幼

稚で、淺薄に思はれるかも知れぬ。しかし、物の公平無私な觀察即ち眞理への思慕は、こゝにその本格的衝動を閃めかしてゐる。單純で素直、率直で正直な物の觀方——これこそ兒童が休みなく敢行してゐるものである。

兒童の遊戲生活をみるに、かれらはいかなる對象さへいざも、恰かも生けるものゝ如く取扱つてゐる。事物へのかかる態度は、いかに考慮すべきであらうか。ひまは兒童を觀察するに當つて、先づ何よりも大人の偏見、偏察の一切を剥ぎ取らなくてはならぬ。子供が對象を生命者として觀する態度は、事物を單に外から分析して、法則的秩序の下に存在の個性を散佚せしむる器械的、理知的手段に訴へるのではない。概念的、抽象的觀察によつて、物々、部分間の理論的相關を究めるためではない。かれらは、たゞ偏へに、物の全體を活かしつゝ存在を一つの完全なる自體として親しまむがためである。分析作用以前に綜合活動がなくてはならぬ。兒童は單に物をもてゐるのではなく、物に於てその存在性格を觀てゐるのである。兒童は單純無雜な直觀力を備へてゐる。對象に自分を根柢に於て一者となす直觀

力、洞察力を所有してゐる。理論的認識以前に、生命的直観がある。生命的直観は事物の全體性の認識を強要する。

しかもこの強要は、日常的集約的意識、慣習、文化的傳統に捉はれないものうちに、最も活潑にはたらいてゐる。

しかし、われらの周圍に遊んでゐる子供は、その純眞な自然的性格をひきく傷けられてゐるために、われらはこの大人の子供の外皮を破つて、子供の活動狀態に直接侵入し、その核心、生地を率直に觀察しなくてはならぬ。大人は事物を利用し、實用化する必要から單に存在への或人爲的關心に注目するのみ。したがつて不用、無必要な部分や事物には、概して不注意である。かくの如きは、眞に事物がもつ本來性認識する態度は云ひ難い。子供にはかゝる豫想がない。かれらは事物を單に愛してゐるのみではなく、己れを空しうして在るがまゝの存在を愛してゐる。子供の事物への態度は愛から始つて愛に終る。己れを空しうして對する事物への態度は、そこにものゝ存在性、個性が、おのづから顯現せざるをえない。事物への全き認識は直観は、對象と主観が相隔りながら、しかも根柢に於て、同一、一者、

同胞、同質なる感識の上に成立する。この同一感こそ、眞理愛、藝術的衝動、宗教的感情いな本當の人間の感情の基調をなすものである。存在へかゝる愛の體驗は宇宙直観は、もつぱら、童心的・排先入主的魂の純眞性にもとづく。

子供は大人と動物との中間者ではない。むしろ、大人と動物を率ゆる有機的、超有機的生命活動をつらぬく生命自體、その佛を宿す象徴的存在は言はなくてはならぬ。それはかれが生計的脅威に煩されなうなためになく、かへつて、かゝる性格的生命者だからこそ、生計的脅威に捉はれないのである。

## 五

大人には唯物主義者が居る。しかし、おそらく子供は唯物主義者ではない。それはいへ又唯心主義者でもない。かへつて、唯物、唯心以前の世界に生棲してゐる。兒童は精神的存在物質の變輕性を體驗的に肯定する。しかも、兒童は極めて直截な生命主義者である。同時に最も自然的な個性主義者である。普遍のうちに特殊が息づいてゐるを生活的に了解してゐる。子供は理論的存在の此方の實在を直接に

交渉する。そこには特殊と普通、個性と生命が一者として存在する。こゝは理論と徳と藝術を創り出す根もこで有る。子供はものを具象的相に於て眺め、形態の表面に滲み出た生命の輝きを直観する力を持つてゐる。子供は物質と共に精神を、精神と共に物質を、同時に、同機會に了解する。兒童は實在を隔てゝ観る以上に實在自から語るころに耳傾ける素直さ虚心さの心情を失つてゐない。子供は生命を通じて物をみ、いな、單に生命の無限の活躍をみてるにすぎぬ。子供に於て、世界はまさに、魂の舞踏場である。名利に驅られて暴れ騒ぐ人間界の不斷の鬭争の暗黒界を子供は知らない。知らなくてはならぬなんらの生活因、性格因を持たぬ。世界は原子の離散、聚合によつて成敗するのではなく、かへつて生命の飛沫は、物質と云ふ美しい象徴的衣裳をもつて舞踏する。

こゝろの窓の自由に開放されたところには、あらゆる存在が勢込んで流れ込み、又自由に流れ出づる。自づからを萬有のうちに溶かし、萬有のひきまつる表徴點として自分を觀る兒童は萬つものゝ特性を識る新鮮なる知覺の所有者

と言はなくてはならぬ。新鮮なる知覺に映する事物は、冷たい理性によつて出来上り、結びつけられてゐる概念的存在とは異つて愛と親和のうちに交はりつらなつてゐる、全體的存在である。精神と物質との如き存在は、大人の理知と生活方便よりする概念的、分析的結論にすぎぬ。子供はもつと具體的世界に棲んでゐる。世界自體の自然性に即して生活してゐる。子供にまつて世界は一にして一切である。斷片的經驗に對して、純粹經驗、全一經驗である。思索、志向、感情は一切を擧げて、存在的經驗の中に、ひきつる渾一せる生命として溶け込まなくてはならぬ。故に、子供の認識と生活は具體的、全一的であつて、功利的、部分的でない。對象認識の態度は直觀的であつて分析的でない。種々の途を造り、物のいろゝの分別は、成長と共に延びて、大人の得意とするところであるが、本來の子供は物そのものに直ちに接觸する。子供はたゞ實在と戯れ、實在と親しみ、實在と私語し、實在と共に實在の一部として並び立つてゐる。

(未完)



# 冬期の子供の衛生

四〇

醫學博士 岡田道一

眞冬となつて寒さはぐんぐん厳しくなつて参ります。毎年の事ながら幼ない子を持つ世の親御さんの心使ひは一通りでありません。それも冬の病氣の王者である感冒の豫防、又これを豫防するが無事に冬を送る事の秘訣であります。

實際風邪は萬病の基であります。幼兒にまつてこれ程冬に恐ろしいものはありません。冬期の衛生には、換氣、含嗽の必要、衣服、其他種々有りますが、もう既にこれ等の事は、新聞或は本誌、又は諸雜誌に掲げられ、又皆様も既に御承知の事でもありますから、之を省かせて頂き今此風邪其他の豫防に就て二、三心付いた點を申述べやうと思ひます。

## ◇居眠り、うたゝ寝は嚴禁

うたゝ寝、居眠りは夏に限られたやうですが、之が幼い兒童にある、又大人にあつても冬期に多い事は、人のよく

知る處でありませう。冬期のうたゝ寝、居眠りは風邪の基です。多くの家庭にあつては、年末が近づいて來るこ、幼ない子供を連れて夜買物に出かけます。其歸り道、子供は疲れて車中で居眠をして居るのをよく見受けます。又入浴後今迄寒さの爲に、ひき縮つてゐた筋肉、身體はぽか／＼暖たかさの爲にゆるんで、よい氣持でうさ／＼子供はうたゝ寝をします。又食後も同様、皆様も此經驗は御有りです。實によい氣持のものです。此時親御さんなりが、「うたゝ寝していきません」云つても子供は寢てゐながらも「眠てはるません」を答へるのは何處の子供も同じです。

このうたゝ寝居眠りほご幼ない子供に毒なものはありません。そこで御注意申し度いのは夜分の買物に幼な子供は連れてゆかぬこ、湯上り後(夜分の場合)は直ちに就寢させるこ、食後に注意するこ等は是非御守り願ひ度い

ものだと思ひます。こゝで夜の寒氣を避けて、朝の寒氣を元氣で迎へさせ抵抗力を養ふ事を忘れてはなりません。

### ◇便通に注意

一日一回の便通は人間にさつて忘れる事の出来ないものでありますが、つい冬期にあつては、正しい朝の習慣を、寒さのために暖たかくなつた陽中に延期する方が多く、殊に子供にあつては、親御さんが注意しても、行きたくないと云つて出てゆきます。これがため悪習慣になつた便秘症になつたり、よく急に倒れて幼稚園の先生を驚ろかす腦充血を起したりします。そればかりか何故これが風邪の基になるのでせうか、正しい一定の時に催ほし今迄整へてゐたものを、これを夜に或は翌日にさするため、意外に時間を費し、それがため風邪を引くのは當然な事であります。失禮な言やうではあります、この些かの事から不測の害を招くのであります故、特に注意を申上ます。

### ◇貧血

貧血兒童であれば、風邪を引き易いのは當然です。これ

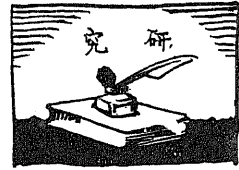
は鐵劑、其他營養分によつて補ひ養ふ事が出来ませんが、營養によつて補ふ事の出来ない貧血が一つあります。一寸氣づかぬものでそれがために感冒に冒されます。それは子供の敵、蛔蟲の寄生であります。さうか冬だからさ安心なされず、月に二回位の蛔蟲驅除藥の服用はこれ又冬に忘れてならぬ幼児の健康法であります。

### ◇炬燵(あんか)

炬燵に這つて子供の居眠りしてゐるのを繪や彫刻に觀れば非常に風流で結構なものです、實際はこれに反して、これ程子供の抵抗力を弱め、害のあるものはありません。晝間でもこれに這るゝ出るゝのが厭になります。それで急に出て外氣に觸れゝば、くるゝゝさすゝむ程寒さを感じます。これ丈でもよいものでない事が分かります。

まして就寢時の所謂あんかはよくないのである事は間違ひありません。夫も貧血で即ち冷症の幼児なら、温たまる迄は入れてやる事は仕方ありませんが、健全な子供に、嘘ぞ寒むからうゝ、炬燵をしてやる事は、眞の親の愛はさうして申せませう。是非此あんかは廢して頂き度いものです。

# 一年間の保育 (三)



大阪市御津幼稚園 宮 本 光 代

十一月

一日からお辨當が始つて待ちかねてゐた保育時間の延長が行はれる事になりましたが十一月十二月と二ヶ月に續く狭い假住居の不自由さは私にこつて相當苦しい経験でございました。一日の中にさうしても入室しなければならぬ時が三回ございましてそれは朝九時半に始業の合圖があります。まず兎も角も遊びを止めてお部屋へ入りて自分の座蒲團の布かれた机の前へ坐ります。其れから整容が始り鼻をかんでから改めて朝の挨拶を交して遙拜、君ヶ代合唱、之れが一通り終つて後に今日のお仕事なり唱歌なりの保育項目に入つて行きます。お午のお辨當の合圖は十一時二十分にございまして此の時になります。待ちかねた様に洗面場

へ集り、手を洗ひ清める。お部屋へ入つてお膳の前へ坐つて居ります。そして名前を呼ばれた子供から一人々々お辨當を受け取る。早速用意を致しまして保姆がつぎます。水でうがひを濟ませてから靜かに揃ふのを待つて「戴きます。で皆一緒にお箸を取る事になつて居ります。

お歸りの時は一時半に合圖があつて再び入室致します。自分の靴お辨當、帽子等を取つて机の前に置き帳面を出して捺印を待つのでございました。斯うした一定の形式で毎日の保育が繰返されて居りましたがその時は大體保姆中心になつて居りましたから子供一人々々の自發活動は其の爲可なり抑へて居らねばなりません。其處の手加減がさうも私にはうまく行けないのでして和やかに圓滑に

行はれてゐる組に引きかへて自分の組のこの騒々しさ、混雑さは、毎日惱みの種になつて居りました。毎日く之れだけの事をさせる爲に何かして混雑を除きたいものだと思ひまして机の並べ方も色々替へてもみましたし臨時に帽子掛けも作つて机にも一人くの名札を貼つて、坐る位置を定めて置きました。靴脱場が一番紛らはしくなりまして脱ぐ度びにお靴く揃へる事を注意致しました。そうして入室して了ひますれば、一人としては公然と受入れてやれる子供の動作も集團生活なるが爲に、抑ばねばならない事も起つて來まして思ふまゝの雑談や立歩きも度々止めさせねばなりませんでしたし、うがひをするにも物を配るにも、一定のきまりに従つて、運んで行かねばなりませんでした。子供の個性を重んじて思ひくゝの活動をさせるのが良いと思つて居りまして其れを許せば益々混雑さを増す計りになりますので結局は不自然な環境の中では矢張り不自然な方法を當てはめて行かねばならない。廣く大きな自然に抱かれて育まれて行く子供に狭い保育場へ入らねばならない子供の取扱ひも、自らそれに應じた様に變

つて行かねばならないのか云ふ考へに落付きましたが日

の生活には何か充されぬ物がありました。叔子供の生活はミ申しますミ斯うした私の氣持に何のこ

だはりも無く日々新たにきよみなく進められて居りました。丁度菊の花盛りの頃でもございしますので、明治節を迎へて間も無い日、全園児打連れて、千里山へ遠足に出掛けました。其の後の幼稚園も刻一刻と秋の粧ひに變つて参りまして取りくゝの菊の花も咲き亂れ、紅葉銀杏、藤櫻なぎ美々しく色付いた木の葉が著しく庭に舞ひ落ちる頃になつて子供の世界は何處までも惠まれて居りました。その頃、先日取毀ちの際拾ひ集めて置きました、色々の飯事道具を、玩具箱を造らへて與へました所、非常な喜び方でございまして内外を問はずに菊の花瓣、落葉大根砂色紙なぎを使つて自分達同志でとても良く遊べる様になりました。漸く團體的な遊びに興味がつて來たのでございませうか、うららかな小春日和の午後は打揃つて庭に出て花一匁や、野に出て遊ばん等の團體遊戯で時の經つのも忘れて遊び續けられる

のでございました。

此の外に丁度此の頃「幼児の觀察のさせ方」の書物を讀ませて頂きました後で多少とも智識を得た嬉しさから庭に出ても片ツ端から觀察させて見たくなり、あぢさるの葉に手を比べ合せたり木の芽を探させたり紅葉の葉の數を讀ませたりする事を面白く行つて居りました。二十日に動物園で園外保育がございました時も、此の時さ許り直觀教育を充分に試みた積りでございました。

去年は動物園へ参りまして後かれこれ一ヶ月程かけて温室の中に動物園を作りましたが今年は第一造らへる適當な場所がございませんし、未だ子供の製作慾が其處まで届かない様に思はれますのミ、一つは、幼稚園全體が此の頃特に日常生活上の躰方や國民精神の涵養なごに力を入れる風に向いて居りましたので大掛りな仕事を始める氣にもなりませんでさうく此の月も過ぎて了りました。

## 十一月中の保育事項

(一)手 技

粘土(菊の花の植木鉢) 粘土(種みみかん) 國旗 手提

## 四四

袋(摺み紙) 粘土(松茸) 紋形(貼り方) 自由畫 塗り繪(もみぢ) 塗繪(植木鉢) 粘土(自由製作) 壁掛菊の花貼り繪 自由畫 オルガン(摺み紙) 紙人形(摺み紙) 勳章(菊花の模様) 動物の製作 動物の畫 粘土(主として動物) お面(キュービー) 塗繪(さん花) 落葉籠(摺み紙)

## (二)談 話

象の魚釣 象と鯨の話 キュービーさん きのこのお傘(カサ) 富子さんのおふさん みーちゃん兎 豚ミ家雞このあひるの話

## (三)唱歌遊戯

鬼さんこちら 秋の庭 象 おじぎ 菊の花

## (四)行 事

一日、本日より九時半始業二時放課 三日、明治節 六日、千里山へ園外保育 十五日、年少齒の検査 二十日、年少兒動物園へ園外保育 二十三日、新嘗祭 三十日、本月より園舎建築の爲大工出張用材搬入、年少兒定期體格検査

## 十二月

先月の末から此の月になつて、又々風邪引きで休む子供が多くなつてまゐりました、これまでに、もつこ幼児衛生を心掛けて何さかして居りましたならばも少し豫防も出来るたでせうに、今更申わけのない思ひにせめられつゝ此の上さも、室の中では成るべく埃を立てない様に坐る時は必ず座蒲團を敷く様に、戸の開閉も嚴重に、始終氣にかけて居りました。

お天氣は定まらない乍ら身にしみる様な冷い風が吹き募る時であつて、追々秋から冬へミ時候は移つて行きました。それで五日からお部屋へも大きな火鉢を一つ入れて貰ひましたら、朝の中は早速ミ圍りを取巻いて了つて大分話し合ひの熱も高じて賑やかでございましたがだん／＼午近くなつて、周圍が自然のぬくみを持つ様になる頃は我も／＼こ外へはぢき出されて、飯事遊びや兵隊ごつこや鬼ごつこ、走りつこなごでよく遊びました。隠れ鬼ごこは一番皆が好きですのでお辨當の後は必ず私が誘ひ出されて追ひつ追はれつ元氣に走りまはります。又お部屋の中では殆どお遊戯

が出来ません爲日の良く當る庭に出て、組の誰彼なく手が繋ぎ合はせて露天遊戯會を催す事が幾度かございました。

然し此の頃は早や假園舎の建築に取り掛つて居りましたので仕事場や、材木の置場等で庭が可なり狭められて居りました。時々つミ立止つて、かなな層にまみれて、立働く大工さんの姿に我を忘れて見されてゐるのもございます。

私達も毎日／＼柵の彼方から望みみ乍ら、ぼつ／＼ミ家の形が組まれて、仕上つて行くのを楽しんで待つて居りました。

それにお正月もだん／＼近づいてまゐりました子供心にはもう早や十二月の聲を聞くのミ一緒にお正月を迎へる樂しさが蘇つて來るのであります、何處のお部屋からでももう幾つねるミお正月の歌やお式の歌なきがよく聞えて來ますし、子供同志で未だ來ぬ先の樂しい日を話し合つてゐる姿もいぢらしうございます。そしてかりん／＼ミ氣持の良い音を響かせて、羽根突きや風船や毬つきの遊びがミても流行り出しまして、幼稚園には一足先に春が來た様な長閑けさでございました。

例年ならば、お正月を迎へる前に、大仕掛けの年の市を開きまして皆で作りました、玩具を賣る店屋を六ツも七ツも作つてとても賑々しく遊ぶのでございますのに、今年

はそれも叶はない事になりましたのでせめて皆の作った品はもちばなに吊り下げて持つて歸る事にしよう云ふ事になつて毎日製作で相當時間をかけて居りました。朝はお部屋に籠る時間が自然多うございましたが、それでも人数が少くなりましたせいか、割合樂な氣持で過せる様になりました嬉しうございました。

製作品は短冊や星なごを合せて一六程ございました、之れを柳に吊り下げて可愛い、もちばなをつけましたながめは随分美々しく子供達も自身で作つた物だけにその喜び方は大したものでございました。

それに二十二日には假園舎も既に立派に落成致しまして四方八方日の丸の小旗に埋つて、新築の喜びに輝いて居りました。

此の日は皇太子殿下第二回御誕生奉祝ミ新園舎落成ミ二重のよろこびを重ねて此の新らしい室でお祝ひする事の出

來ました事は何ミ幸せな事でございますたせう。もちばなの柳はそのお祝ひの氣持を籠めて大喜びで家へ持ち歸つたのでございました。そして二十四日月曜日が修了式で暫く冬休みをする事になりました。

## 十二月中の保育事項

### (一) 手 技

ビエロー人形 紙人形製作 環つなぎ 三寶(摺み紙)  
日の丸の旗 龜(摺み紙) 提灯 粘土(下駄屋) 星花  
ごま製作 粘土 手提袋(摺み紙) 粘土(龜) 羽子板

### (紙製作)

### (二) 談 話

太郎さんのお食事 三匹の兎 ぬすみミライオン  
羽子板さんに聞いた話 羽子板の話

### (三) 唱歌遊戯(◎標歌のみ)

お馬 お正月(もういくつねるミ) お正月(早くこい)  
こい) 手拍子(律動) ◎お正月式歌

### (四) 行 事

六日、照宮様御九歳御誕生日 十九日、製作品整理 二

十日、柳へ吊り下げ 二十一日、臨時休業 二十二日、  
皇太子殿下御誕辰奉祝 新築落成式 二十三日、皇太子  
殿下御誕辰奉祝ラヂオ放送 二十四日、終業式

## 一月

年が改まりますのこ一緒に三ヶ月振りて元の懐しい赤組  
のお部屋へ立戻る事が出来ましてお椅子もお机も黒板も又  
元の儘の姿で私達を迎へ入れてくれました。

以前の二階建の建物は南に長く突出て居りました爲に日  
光が遮られて保育室は幾らか陰氣な所がございましたの  
に、今は其處が廣い空地になつて新しい園舎は赤組と黄  
組との部屋の間におさまりしたのでお蔭で南受けの硝子窓  
は充分に初春の光を受入れて明るく暖いお部屋になりまし  
た。隣りの遊戯室へはお部屋から素板スイタを傳つて直ぐに行か  
れますので一日に幾度もく元の道を往復しては美々しく  
飾られた新築の遊戯室を眺めて嬉しさうでした。それに素  
板をトン／＼音を立てゝ走るのが珍らしくて汽車遊びにも  
使つて面白さうでございました。假住居の間は遊戯をする  
場所がございませんでしたのでピアノの音も聞きませんで

したが今は断然之の部屋一つに人氣が集りまして、大積木  
も幾月振りかで子供の前に現はれて、積木を積む者や遊戯  
をする者で毎日殊に午後は大賑ひでして外の寒さに引替へ  
て室内は春めいた氣分が溢れて居りました。

やがて寒の入りが来て酷寒の季節さもなりますが、流石  
に身を切る様な寒風が吹き狂ひまして、打顫へ乍らお部屋  
の中へ逃げ込んで來ましてもストーブの火の氣はあるか無  
しにしか感じないほどの厳しい日もめぐつて参りました。

凧あげや風車廻しなどで風の日を待ち受けて外に出て遊  
ぶ事もございますが寒い中は一體に朝の製作に引續いて部  
屋の中で遊ぶ事が多うございました。積木を積んだり色紙  
を摺んだりして靜かに遊ぶ事もあれば椅子で家を造つてお  
人形ごっこをしたりオルガンに合はせて躍つたりする事も  
女の子には喜んでされて居りました。然し元氣一溢の子供  
は寒さなごに頓着なく氷があるを聞けば逸早く馳け出して  
行つたり、鋤を持つて兵隊ごっこを始めたり粹登りの頂上  
を極めて上り下りの遊びを興がりましたり、偶には部屋へ  
歸つて來たと思ひましたら火事だ／＼云つて折角の飯事



道具を搔亂す云ふ様な元氣餘つての悪戯もしかねませんので私も外へ出て一緒に鬼ごつこや走りつこなぎで夢中になつて遊ぶ事がございます。

又或時今年中一度も用ひませんでした人形芝居の人形を出して来て貸してやりましたら非常に好奇心を惹きまして私の仕事を真似て、赤いベツ着た金魚や僕は軍人なごを一所懸命に躍らして居りました。人形芝居の舞臺は手製の不完全なものでして、大勢に見せるには小さすぎますし自分の組だけに致しましても私一人ではごうも役割が多すぎて故障が起きやすいので色々迷ひ乍ら今年は見合せて来たのでございましたが久し振りに取り出した人形に斯んなままで惹き付けられた子供の様子を見ますと、又是非復活してやりたい氣持になりましたので取り敢へず眞黒に汚れた埃を拭ひ暮の繕ひもしておいたのでございました。

午前中は時間が短いので少し手の込んだ仕事でもして居りますと、直きにお午が参ります。子供に取りましては、お辨當の時間が一番楽しい時でございますので毎日拍子の合圖を待ちかねるのでございました。この喜びの氣持を逃

さずに、皆揃つて頂ける美味しいお辨當を通してお母様に對する感謝の心を植ゑつける事が出来ますれば幸せだご願つて居りました。この頃ローラースケート云つて、蠟紙で亘る遊びが流行り出して、蠟紙が重寶がられる様になるも、家でもせがむらしく蠟包みのパンがちよいと目に付く様になつて來ました。お辨當の濟んだ後はてんでに其れを貰ひ受け様にして先を争ふのでございました。お天氣が良ければ午後は暖かくなりますから、大抵鬼ごつこをして、お歸りまで外で遊べますが反對に、雪や霽でも降りさうな空模様でしみ入る様に冷たい日は子供も、随つて沈みがちで元氣もなく女の子の中には朝出るのが臆劫になりますのか嫌がつて泣く子も出て來ました。こんな時には早く春になればいゝのにと思ひますけれども春までは來月も一月の峠を越さねばなりませんでした。

## 一月中の保育事項

(一)手 技

お正月の晝 雪だるまの製作 塗繪(もちばな) ゑびす  
様の面 紋形(貼り方) 塗繪(風船) 自由晝 馬(摺み紙)

## 風車製作

### (二) 談話

ねずみの工夫 富子さんの風船 豆藏の行方 三匹の小

豚 ころりん爺さん 鶏と狐 雪だるま 鼠のよめ入り

鼠ミライオン 三匹の仔犬の話

### (三) 唱歌遊戯(◎標唱歌のみ)

電車と汽車 手拍子 お日さま 雪やこんく 鼠の兵

隊 ◎豆撒き

### (四) 行事

八日、第三學期始業式 二十三日、體格検査

## 二月

此の月から出席表を用ひる事に致しました。他の組では既に九月頃から始めて居りましたが私の組には未だ自分の名前が讀めない子供が多かつたし小さい圓形を樹の中へ一ツく貼りつけて行く作業が細かいので延してゐたのでございましたが早や三學期もなつた今は、そろく年長組になつた時の用意にもご思ひ、二三の子供には、名前の字頭に目標をつけて置きまして、登園しました子供から直

ぐに自分の名前の下へ貼らせる様にして居りました。朝はそれで大方部屋にゐて、私が付きまりの様にして居りました。

二月に入つて間もなく、年中行事の一つとして節分を迎へました。鬼や福の面は前から作つて置きまして、やがて當日になればお話やら御遊戯をした後、小さい三寶へ入れて貰つた豆を皆と一緒に美味しく頂いて、楽しい半日を過ごしたのでございました。之の時分からもう直ぐ大きい組になれる、お年が一ツふえたのだと云ふ自負心が周圍の者の誘導も手傳つて大分子の心にはつきりき、きざみつけられて來た様でございました。

いよく年少も後一月餘りでお終ひになりますので一年間の總勘定をつける意味で今學期中に遊戯會と畫の展覽會との二つの大きな行事が控えて居りましたので二月一溢はこの仕事を中心に進んでまゐりました。

酷寒の季節に申しましても今年の冬は割合に暖かうございましたので朝の中は、何か設定された保育を致します。午後は、大抵遊戯室や庭で自由に、遊んで居りました。も

つゝ自由遊びの中に仕事の分量を多くして行き度いと思つて居りましたが思ふ計りで仲々實行が伴ひませず、自然、遊戯の練習ミ畫き方の方に多く勢力が傾いて参りました。

遊戯は折角父兄を招待する以上、出来るだけ立派に見せる様に毎日一所懸命に練習を重ねて居りました。こんな毎日熱心に練習を繰返してゐて之れで本當にいゝのか知らぎ疑ひを挟み出します。自分乍らも頼りなくなるのでございませすがそれでも此方が勵ましてやれば子供も一所懸命に致しますし、今まで一度も遊戯をした事の無かつた子もお母様に、見に来て、頂くのだ。云ふ事で初めて一緒に出来る様になつたのでございます。

遊戯會をかねた父兄會は二十一日と二十二日の二日間に互つて致しました。最初の日は晴天に恵まれて、園庭で行ひましたが次の年少組の日は生憎の雨天でございましたので遊戯室でいたしました。其の日參觀に参りました親達は我が子のいぢらしく躍る姿を見付けろ。ささも嬉しさうに溶け入る様な笑を浮べて瞬きもしない有様でございました。

遊戯會の濟みました後は、引續き展覽會の準備で何の組

もくお畫かきの大流行でして、矢張り此方がそうした環境に置くからでございませうか、強いるのでなく子供も又自ら好んで描いて居る様でございました。然し私の組は未だ年が行かない爲です。か畫く事は餘り興味を持つて致しませんので——今年に餘計にさう云ふ風に感じるのでもございますが——だんく期日が迫つて来るし内心はらくく氣を揉んで居ります割合に、子供は極めてのびやかに平氣な様子でございませうので今年に其の氣持の儘で展覽のある事は一言も口に出さずして、月末までに自動車のお人形を主題にして、二枚の繪を畫かせたのでございました。然しその畫は他の組に比べて描寫の仕方、内容もかけ離れて見劣りのしたものでございました。

かうして出来た繪を裏紙に貼りつけて大體用意も整いました頃やがて二月も去つて周圍は何時からとも無く春の息吹きを感じる様になつてまゐりました。

## 二月中の保育事項

### (一)手 技

自動車(摺み紙) 鬼の面 椿(貼り繪) 福の面 寫生

(格) 三寶(摺み紙) 自由畫 寫生(桃) 塗繪(だるま)  
自由畫(自動車) 紋形(貼り方) 自由畫(人形) 自由畫  
紋形(貼り繪) 門(摺み紙) 塗繪(國旗)

## (二) 談話

豆藏の行へ まめ／＼のびよん吉さん

平藏さんご權藏さん 月夜の狸 ニャン吉ミチュー助

ブレーメンの音樂師 三匹の熊 赤帽子さん

## (三) 唱歌遊戯(◎標歌のみ)

◎豆まき 大きなお日様 ◎雜祭り 飛行機 椿 春よ

こい ◎紀元節

## (四) 行事

四日、節分遊び 八日、式の練習 十一日、紀元節拜賀

式 十五日、口腔検査 十九日、遊戯會練習 二十二

日、年少保護者會併せて遊戯會 二十六日、體格検査

## 三月

三月は何かさ、行事の多い忙しい月でございました。二

日三日は全國の保育大會が國民會館で開かれてまして朝から

私達が出席致しましたし、その爲お雜祭りも七日に延ばし

まして、其の日は、お雜様の前で御馳走を頂き楽しい一時  
を過して來たのでございました。十日の陸軍記念日には、  
日曜日にも拘らず小學校の子供と一緒にたつて日の丸の旗  
を振り立て乍ら部内中を旗行列で歩きました。

十三日からいよ／＼畫の展覽會の準備に取りかゝりまし  
て、十四日十五日の兩日を展覽日に致しました。畫の數は、  
全部で五百五十枚程ございましたでせうか、大體年長組は  
三枚さ、年少組は二枚を標準さして選びましたものを、組  
別にして順々に貼りつけたのでございます。午後からは多  
數の父兄の參觀で賑はひました。之の機會を捕らへて、丁  
度學期末でもございますので母親から家庭の様子を尋ねた  
り此方からも聞いて頂きたい事を申上げたり致しますのに  
大變好都合でございました。

其の後は引續き午前中の保育にして學年末の整理や卒業  
式の豫行演習等さ、忙しさに暇も無い程でございましたが  
中一日は年長年少の子供が打連れて、石清水の八幡宮へ記  
念遠足を致しました。其の日は本當に暖かくボカ／＼さ、  
春の陽が一澄に降り注いで何さも云はれない恵まれたお天

氣でございました。京阪電車に乗り替へ又ケーブルカーに  
乗つて、男山の頂上から下を見下した景色や八幡宮に詣で  
御祈禱をして頂いた事、又は櫻林の下で、こぼれさうに、  
吹き出てるる、蕾のふくらみを見上げながら、楽しくお辨  
當を開いた事なき、幼稚園を去つて行く子供には忘れがた  
い思ひ出さなつて、何時までも胸に残る事でございませう。

二十二日は、いよく四十五回目の卒業式でございまし  
た。父兄に伴はれて、新しい洋服を着た子供達が今日大人  
がごんな感情を抱いて居様も其んな事には係り無く何の  
子も、喜びにはち切れさうな顔をして次々、登園してまる  
ります。親達にしてみれば何の分別もなかつた頑是ない子  
供達を母親もなり代つて二年の間御世話して頂いた先生  
も此の楽しい幼稚園も今日を限りにお別れして去らね  
ばならないのだと考へますと、子供が幼ないだけに餘計に  
いぢらしさが募つて別れ際に辛くなるのでございませう。  
式中堪らなくなつて咽び泣き聲さへ洩れて来る程でござい  
ました。送り出す私達も又同じ思ひに胸一溢になつて、お  
互ひに別れを惜んだのでございました。

卒業式が済んだ翌日は後に残つた年少組計りで一年間の  
保育終了式を致しました。これでいよく昭和九年の一年  
間もお終ひになりました暫く春休みを致しました後四月か  
らは新らしい年長組として緑組へ進んだのでございまし  
た。

### 三月中の保育事項

#### (一) 手 技

内裏雛(摺み紙) 壁掛(雛人形の貼り繪) 塗繪(内裏雛)

菱箱製作 塗繪(幟り) 自由畫 粘土

#### (二) 談 話

お人形 スナップさん 三吉さん

#### (三) 唱歌遊戯(◎標歌のみ)

雛祭り 私の人形 春よろこび 送別の歌

#### (四) 行 事

二日、保育大會につき會集のみ 七日、雛祭り 十日、

陸軍記念日旗行列十三日、描き方展覽會の準備 十四日

十五日、晝の展覽會 十六日、體格検査 十八日、卒業

式練習 十九日、園外保育 二十日、卒業式練習 二十

一日、春期皇靈祭 二十二日、卒業式 二十三日、終了式  
かうして色々過ぎ去つた日の事を思ひかへしてみます  
ミ、其の間には随分至らぬ點も多うございしました。けれど  
もこの一年中自分も子供も一ツになつて喜憂を共に無事に  
過させて頂けましたのは何よりも有難い事でございまし  
た。

年長組になりますれば、今までミは子供の氣持も保育の  
仕方も色々變つて來る事でございませうが去年の失敗は  
再び繰返す事なく今年も又悉く一年間を過して行きたいと  
存じて居ります。

至つて未熟な者でお恥しい事でございますが此の際に諸  
先生方の御導きを御力添へを給はりますればこんなに幸せ  
を致します事か存じまして、不束な身も省みませず以上、  
記させて頂きました。

どうぞ御指導下さいませ。(完)

## 木の葉で駈っこ

鈴懸の葉が、一夜の露でしつとりとぬれた黒い地面  
に、點々と散り敷いてゐる。朝、保育室の重い扉を、  
庭へ開いた時、この景を見るのは一つの楽しみであつ  
た。

或る日、どこの室でももう歸り支度をしてゐて、外  
では男の子の一隊が居るばかりであつた。これをよび  
に出た私は展開された目の前の景に吸ひつけられて立  
ち止つたのである。

それはいつも室の掃除につかふこみ取りに鈴懸を一  
葉づゝ乗せて、駈つこをしてゐるのであつた。

二人づゝが、よおーいドーンで駈けてゆく。子ども  
と、こみ取りと、葉つげと。途中、積木を一つとび越  
える關所があつて、こゝでビヨンと飛ぶと鈴懸はヒラ  
ヒラと飛ぶ、あはて、捨ひに行く姿。

思へば幼稚園の庭にはあそびがかうして方々にごろ  
がつてゐるらしい。

(よしこ)

# 主任の先生方へ

大塚喜一

第二十一回基督教保育聯盟關西部會大會が、本年十月十九日午前九時より夕刻まで、神戸市頌榮幼稚園に於て開かれた。會の次第、出席所感等書けばいろ／＼ある。この中から、こゝには是非主任の先生方に特に書いて頂きたい事がある。そののみを記すことにする。この問題は實は小生

が以前から、若き保母さん方の良き生長を念願する心から常にさうして頂きたい希望を持つてゐたのであつたのが、丁度當日の懇談會が園長・主任・保母の三部に分れて開かれ小生が主任の集りの後の方に傍聴してゐた時本會の始から司會をしてゐられた方が「主任さして特に俱に考ふべき問題は……」小生に小聲で問はるゝまゝに平素の卑見を申上げたところ、「私もさうすべきだと思ひます。是非その問題をあなたから出して下さい。主任でなくとも發言に制限はないから」こしきりにすゝめられる。しかし何分短時間の

事にて當日遂にその機を失した。且この問題は殊に一園の幼兒數の多い幼稚園に一層肝要な事と思ふので、こゝに本誌を通じて廣く公表して主任の先生方の御賢慮を伺ひ殊に實際上の困難を打開すべく格別に濃やかなる御高配を切願する次第である。

實際家諸賢は理論よりも實際に一層興味を持たるゝであらうから、先づ小生のかねての念願を裏つけて頂いた事實から述べやう。この會の日の正午前後約一時間を保育科生徒と俱に神戸幼稚園を見せて頂いた。この園には當保育科出身の某氏が奉職させて頂いてゐるのであるが同氏が前任の園にて少數兒を擔任してゐたのに鑑み本年度は年少兒二十一名の組を持たせてあるとの御話で事實さうであつた。そこで小生は當日園長先生にこの同情あり理解ある態度に感謝すると同時に、若き保母を育てゝ行かすべき位置に居

らるゝ園長並に主任の先生方へ特に小生としてお願いしたい根本の心情を披瀝した次第である。茲にこれから讀んで頂く事こそその基本をなすものである。

\* \* \* \* \*

『保育するこいふ事は幼児の生活にかへる事である。幼な兒も俱なる生活をなす事である。保育に關するすべては結局この本義に基くものであるから、我々はこの本義さへ確實に理解し常にかうした生活をしてゐれば、總ての問題はそこから解決の道が見出されるのである』。

保姆たるにふさはしき心情の涵養と態度の修得とは、實にかゝる「幼な兒も俱なる生活」の中に漸次に實現せらるゝものであつて、その「初經驗の間に、『習性となる』」ことにより保姆その人が幼児達から受くる光によつて育てられて來るのである。童心の光により日々新生しゆくこころを實に幼兒の友より師への生活の基本を樹立するに最も大切なるものである。吾人は若き保姆諸彦に斯かる生活をして頂くことを第一義として保育の實際をお互に考へて行きたいと信じてゐるのである。

一組の幼児の人数の多い事は保育の種々の方面に多くの困難を起すものであるが、保育上の總ての事象中に於て保姆その人の態度を最も尊重する吾人は、多數の幼児達を擔任せしめらるゝことにより幼児の生活に共鳴しその要求を充足せしむべき保姆の大切なはたらきがよほぎ根強いものでなければ、外的管理監督さへ風な目先の必要事の爲に壓倒せられてしまふ事を最も憂ふる者である。この困難なる實際問題に當面して多年の御體験を積ませられたる先覺諸賢も俱に熟考しつゝ御高教を仰がむとするに當り小生は保育態度の眞に尊重せらるゝ所以は保姆その人の根深い性情の最内部より自然に發露し不知不識の裡に幼兒達の性情に浸潤しゆくところにある事——その眞實の情景に深く思を致したいと思ふ。こゝを考の中心點として初心者も經驗者も、擔任する幼兒數の多少も保育態度の適否との關係に於て比較對照して見るに大體(他の細かい事情が凡そ同様であるとして)次の様になるのではないか。

初心者に少數の幼兒達の一組を擔任せしむる時は、前述の「幼な兒も俱なる生活」が比較的出來易い状態にあり、



幼児の一人一人に對する細かい行届いた世話や綿密なる個性の觀察等はその人により出来不出来の差の多い事もあらうが、少くも幼児達から受くる光により保姆として自己の生長して行く事だけは分に應じて多少の差こそあれ大體に於て次第に進み行く事が可能であらう。

斯くして子供と俱に生きる生活體驗、更に切言すれば子供によりてこそ眞に自己の生き甲斐を見出し子供無しには到底生きられないといふ實感が若き胸に高鳴つて彼女の性格の中に新生の根を下す事が出来れば、その子供達の心情に共鳴し要求を充足せしむる等の最も大切なる態度が自然にその人の性情から發露する様になつて來るであらう。それは本で讀んだり人に教へられたからそうせねばならぬのだゞ義務的に考へてするのでなく、彼女をこゝまで育て、來た幼児達の生命が女性としての彼女の心情と一になつて産み出せる「保姆としての彼女」の新生の姿である。一度内に養はれたる——深くその人の内奥に覺醒せしめられたるこの心情はその最初の方向に時と共に益々生成發育する。内より自然に發露するこの心情は意識上の表面の言行より

も一層深く相手の心に響くのである。次第にそれが根強くなり確實にその人の性として定著する様になれば、たゞひ多數の幼児を擔任し一齊に保育してゐる形をまつてゐる時に於ても、少數兒の自<sup>ナチユラルゲルツ</sup>然<sup>ン</sup>群に於ける如きふうわりした味をお互に感得する事を敬服する或る保姆さんに於て實際に拜見した事もあるのである。吾人はこれを「保育態度の內的性向」或は單に「內的態度」と稱したいと思ふ。

之に反し、若し初心者に多數の幼児達をその組として擔任せしむる時の困難と弊害とは諸姉の熟知せらるゝ如くである。殊に保姆としての資質の涵養せらるべき初期に於て幼児達を外的に上より管理し監督する様な習性即ち「外的態度」をも稱すべき習慣がついてしまふと、その後幸にして少數兒を擔任せしめらるゝ様になつても、前より世話がからず稍々樂になつたといふ位で、子供に命じ與へするのみで甚しきは禁止制裁の方にのみ心が走り「子供から受ける態度」といふ様な自然な生活さながらの情景は砂漠の中の綠野の如く見出し難くなる心配が多分にあると思ふ。たゞ今迄感じ得なかつた幼児の「純」を實感し得るまでに覺

醒さるゝに至つても、それ迄の大切な幾月幾年かを「幼児の世界」の惠福の唯中に居りながらこれを享受し得ずして空過した事が本人の爲のみならず其間に生活を共にする筈であつてその實を擧げ得なかつた多くの幼児達の爲にも惜みても餘りある事である。彼が唯怠けてゐたのなら激勵し發奮せしむればよいのであるが、方向違ひの熱心程努力し苦勞し互に非常な犠牲を拂ひ殊に感情過勞の痛ましき重荷に日々惱まされつゝしかもその結果に於て女性と幼児とが互にその本性を滅殺せられつゝある状態は實にこれ程遺憾千萬な事は無いであらう。こういうふ状態にあつては、やればやる程益々幼稚園が幼稚園らしくなくなるのであつて、部分的末技的效果の如きは斯かる致命的損失によつて無理に得たものかと思へば見るも涙の種である。之を前述の「内的態度」を體得せる保姆が童心の光の中に日々新生しつゝ感謝の生活を送りつゝあるに比しその差の如何に大なるかに思ひ到らねたい。しかもこの内外の全く反對の性向は、若き日に於て習性ミなれるものであり一度之を自己の一部に融合するに至らば、なか／＼人に云はれたり本で讀んだ

りした位ではその眞實の心境が如實に實感されるものではなく、漸く之れに氣付いて自ら努めるやうになつても、元來眞の態度は内より自然に發露するもの故、根本から改めらるゝ事が、非常にむづかしくなる譯である。斯く觀來れば若き日に貴女の心の最内部に、永遠の童心へ生長する種子を胚胎せしめられよと叫ばざるを得ないのである。

#### 〔附記〕

本文を讀まれたる先生方の御所感御意見等を私的に公的に御傳へ下さるを得ば筆者の幸とする所である。本文は、若き保姆の良き生長に對する小生の日頃の念願と憂慮とを披打したるものでありその一方面の考察として擔任幼児數のこゝを問題にしたに過ぎない。その要諦の存する所を御賢察下さるならば先生方の御體驗の深さに應じて小生等若輩の考へ及ばざる切實にして微妙なる種々相のある事思ふ。本誌々上に於て又は子供が歸つた後の懇談に於てそれ等の種々相が夫々の形に於て眞面目に回顧されお互に話し合はるゝ機運を促進する上にこの拙文が幾分にて御役に立つを得ば、筆者の本懐之に過ぐるものはないのである。

(昭和十年十月二十三日京都某幼稚園保育室にて擱筆)。

# 思ひのまゝを述べて

五八

米 山 エ ン

一、普及發達のこと。

贅澤物扱の幼稚園。特殊、特權階級の獨占物視されて居た幼稚園。それが茲十餘年來社會施設中の重要な地位を占めることになりました、乳幼児の保護が喫緊事であることを社會全般が認め叫ばれつゝある處へ、

新令發布で彌上にも幼稚園興隆熱が、各地に高まり多く設立を見る様になりました。今土地經營住宅地等の宣傳用として幼稚園を利用し一軒もない處にも設立する云ふ指定地をすでに賣り出す前から云つて居ます、どんな片田舎にも可愛いエプロン姿が見られるやうになりました。慶賀に堪えません。

かく幼稚園の存在は、社會政策上からも、教育機關の上からも、なくてはならぬ重要なものになりました。この發達普及は實際上その眞價を認められて、國家や、政府の手を

待ち切れずに民衆の聲がかくも特志家の奮起をさせたのでせうか、それなら實に我が幼稚園史上大正、昭和、を一劃期として特筆すべきであります。然し然し時には園舎の殘骸が賣出しに出て居るに會ひます、ほんまに寒氣を催し、堪えられない愁ひに淋しくなります。

子供の物位生産と利益を超越したものはありません、特に幼児教育に於ておやです、一見經營も樂で、香氣で、面白相に見えますこの教育も案外に骨が折れ、そして效果の實際立つて見えないものです、やつて見て中途で投げ出し度くなるのもほんまでせう、そして無理な經營もしなくてはならなくなり、園児に迄も大きな迷惑をかけることが多々あると思ひます。これは經營者に取つて萬止むを得ぬ事ではせうが、これがひいて幼児教育上の内容、形式共に、底下さす素因を作りはしないでせうか。當局も、社會も、當事

者も、この點に用意周到な基礎工事を施すことを忘れぬやうに互助の精神で堅實な發達普及を計つて頂き度ものであるに切に望みます。

### 一、資格待遇のこと。

新令前(十餘年前)の保母としての修學程度及其の經歷について大要左の三種に別れるを思ひます。

#### A保母

我が國女子教育の發達が一地方に偏して居た爲か好學の方々も空しく其機關なく苦心され各種の方面で教育を受けて居られたが制規のものなく、公立幼稚園の練習生となり又は助手として唯保母と云ふ名稱の下にやつて居られたのである。

#### B保母(保母科出身)

東西女子高等師範の保母養成科卒業で高女卒業程度で入學を許可されたもの

#### C保母(本科正教員、又ハ尋正)

師範學校卒業生、高女卒又は同等の資格者で本正又は尋正の免許狀を有するもの。

この三種の保母の内AとBの保母が最多を占めC保母は僅であつた、而してこのC保母には俸給の制限なく恩給も堂々頂かれた、然しこの時の實情は、有資格者は年少でしかも幼児教育に入つて日も淺く経験も少ないものが多く、A保母の方々はこの時すでに我が國幼稚園教育の元老であり最高の地位の方のみの御揃ひであつた。實に保育界の草分けで非常な功勞者であるこの方々になんの恩典もない事は不合理な次第其の時の上司の方々の有り難い思召しが獨立法令發布の導火線となつたのである。

一方B保母の方々にも恩給はつかないでこの時共に運動された様に聞き及びました。

待たれた新令は發布されました。大正十五年四月二十一日意義深い日です。大祝賀會に東京まで大舉しました。そしてその時の生々とした喜びは忘れられません。居候が一時に獨立したやうな嬉しさでしたせう。

而して落着いて新令を研究して行く内にオヤオヤと思ふ節も出て來ました、本正は尋正に下落した取り扱ひ、授給の恩典には浴しても發布の日より有効で、九十九ヶ條とや

らの制限令折角の功勞者への恩典も水泡に歸しました。浴されずして隱退なさいました、この心事を考へて下さい、法はやつぱり冷いものでしかなかつたのです。青春の盛り否一生を保育事業に捧げ盡して今老いて如何せんです、かかる報ひやうは我が保育界のみではないでせうか悲しいことです。

九十九條の一項は先年取れましたがその時にはすでに取れて有難く感ずる人は一人もありません。我々は保母としての教育効果を國家が認めに恩給の仲間に入れて頂いただけで満足すべきであつたのです、然るを上司の方々は年々歳々俸給のこま、年功加俸のこまにつき建議して下さいます、このこまには關西保育會が最も熱心にその運動に骨を折つて下さいます。先づ目的を遂げるまではこの意氣でやつて下さるその御熱心は深く感謝いたします。

#### 一、國家永遠の安全帶として

人間一個の發達そのまゝを見つめてその時に適應した教育を國家が施して國家の存續上、民族保護の下に賢にして健なる國民を造るこまは國家の第一になすべき大事業と思

ひますこの教育機關の内容の整備完全こそ國家永遠の安全地帯を造るものこ深く信じます。

幸幼稚園は文部省の統括の下にありますから幼稚園最年長組の年齢より義務教育とし小學校第一學年をこの最年長組を一團として現行一學年の課程を遊びの間に學習せしめ本體を身體の健全養護を第一義として進みたいかくする時は幼童保護上尤も効果的であると思ひます、今の幼稚園は托兒所にも歩み寄り幼稚園としてもたしかに立つべく種研究されつゝありますが進んで彼等が行く先きは餘り考へなく先方に渡したら能事終れりとして居ますがこの一年生の生活については十分に考へ又幼稚園最年長の組の知的、身體的、情的、あらゆる方面を考察して幼兒の一生、この貴重な一生に一寸でも無駄骨を折らさぬやう考へなくてはならぬと思ひます。

人間一個の存在を考へた時其の興亡盛衰は唯にその一家の大事であつて、大いに國家的精神上から見た時は比すべくもない小事のやうです。然し纏つてこの我も。

國家存續上の大きな役目をして居るを考へた時、斷れな

い鎖の一役であると思へば自重を叫ばずには居られませ  
ん。

有史こゝに三千年、この燦たる光輝の國、上には皇統無

盡、慈仁洽き聖天子を戴き、世界に比類なきこの國土の守  
りこして永遠の連鎖の御役に立つ事を自覺した時實に大事  
業を目指して生き甲斐ある生命を受けた事を喜び大切に自

己教養をなすべきです、幼児教育の上にもこの思想こそ大  
切なものです。

今、學制統一案云々の聲盛んなる時に希は一顧、再顧、  
十年経過せる新令の實績に鑑みて、今一層有効にあらしめ  
られんことを切に願ふ次第です。

### アンデルセン童話百年祭

「今年ば世界の子供の四人であり、特に日本の子供に最もおなじみの深い、ハンズクリスチアン・アンデルセンの逝去六十周年に當り、又其の童話の第一集及び小説の代表作「即興詩人」の發表百周年に當りますので兒童文化史上此の最も意義深い年を記念するため」のアンデルセン童話百年祭が日本童話協會主催の下に去る十一月十七日午後六時から東京九段の軍人會館に於て開催せられました。

廣い会場にあふれた會員の半數以上が子供であることも、この祭典にふさはしく、本當に和やかになつたかしい一夕でした。

デンマーク國歌の奏樂に幕があげられ、東京市長、文部、外務兩大臣、丁抹代理公使の祝辭についてアンデルセンに就いて、又作品の編譯者の紹介、そして君ケ代の奏樂によつて閉ぢられた第一部は、式典としての嚴肅さの中に、國同志一しよに祝ふといふ親しみに満ちたものが深く感ぜられました。

第二部は、歌に、劇に、童話に、ヴァラエテイ「アンデルセン童話集」といふ新しいこゝろみに、斯道の大家を網羅して、寶玉の様なあの童話の美しい世界に陶然とさせられたのでした。

今「アンデルセンと同じ故國を持つこと」を無上の光榮とし喜とするとの丁抹公使のお話を思ひ出し、どうか日本に、日本のアンデルセン出でよとしみじみ願はずにむられません。

(一記者)

# 雜 錄

## 全國保育大會要項

期日 昭和十年十一月一日(金)二日(土)

會場 臺北女子高等學院

### 第一日

#### 一、開 會

#### 一、國歌奉唱

#### 一、勅語捧讀

#### 一、主權者挨拶

#### 一、祝 辭

#### 一、勤續者表彰

#### 一、挨 拶

#### 二、表彰狀並ニ記念品贈呈

#### 三、祝 辭

#### 四、被表彰者總代謝辭

#### 休 憩

#### 一、議長推薦

#### 一、議 事

#### (一)文教局諮問案

「本島に於ける幼稚園教育の實情に鑑み改善を要すと認めらるゝ事項如何」

#### 1、諮問案説明

#### 2 質疑 應答

#### 3 意見 提出

#### (二)建 議 案

#### 1 幼稚園令を施行せられたきこと

#### 2 保育者の向上の途を講ぜられたきこと

#### 3 談話題(發表時間一人に付約五分間)

#### 1 内地會員より

#### 2 島内地方會員より

#### 3 幼稚園に對する所感

#### 4 所感

#### 1 休 憩 (晝夜—協賛會招待—於鐵道ホテル)

#### 2 臺北市私立城南幼稚園 (同 大谷幼稚園)

一、講 演

一、幼児教育の効果 臺北帝大助教 力丸 慈 圓氏

二、幼児の言語機能とお話の本質

東京第一、第二早蕨幼稚園長 久留島武彦氏

(午後四時より六時まで自由)

一、招待 會 (午後六時より) 臺北市保育會主催 於

臺北市日新町蓬萊閣

第二日

一、議 事

(四) 文教局諮問案に對する答申案

(五) 研 究 發 表

イ、觀察を主としたる保育案

(門 司 幼 稚 園)

ロ、内臺幼児保育について

(臺 北 市 保 育 會 樹 心 幼 稚 園)

ハ、本島幼児保育について

(同 愛 育 幼 稚 園)

ニ、内臺幼児の身體發育調査について

(同 大 正 幼 稚 園)

ホ、地方的保育資料としての手技について

(同 暁 輝 幼 稚 園)

ヘ、地方的保育資料としての童謡について

(同 文 化 幼 稚 園)

ト、童謡遊戯發表

(同 錦 幼 稚 園、文 化 幼 稚 園、臺 北 幼 稚 園)

一、閉會ノ挨拶

臺 北 市 保 育 會 副 會 長

茲に、今年最後の本誌をお送りいたす事になり、いつも乍ら早い一年を感じます。今年はお、もし度い、こうもし度いと思つて迎へた新春はつい昨日の様ですのに、でもやつぱし、來年こそと、逝く年をふりかへる時、望まずにゐられませぬ。

どうぞ皆様、御經驗談、御研究、御感想その他、どし御投稿下さいませ。又おてびしきお叱りも下さいます様、お願ひ致します。

公私共にお忙しいでせうこのごろ、お元氣にそしてよいお年をお迎へなさいませ。

(編輯部)



# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一

主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園 主事 倉橋 惣三

## 日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ  
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査  
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

### 會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
會長 一名 會務ヲ總理ス  
主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス  
評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應シ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス  
第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價		廣告	
一ヶ月分	金參拾五錢	特等面	一頁二面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳拾圓	金拾圓
一年分	金四圓拾錢	一等面	一頁一頁以下
拾冊送	金拾圓	金拾五圓	御斷
拾冊送	金拾圓	神田區駿河臺ノ三品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
昭和十年十二月十一日印刷納本  
昭和十年十二月十五日發行  
幼兒の教育 第三十五卷 第十一號

### 不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三  
發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 柴山 則常  
東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
倉橋 惣三  
東京市小石川區大塚町三十五  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

### 發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

### 注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税込)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
- 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

# 著名園稚幼の書圖洋東

久留島武彦先生著

▲豪華版中型三五〇頁▲定價二圓十五錢  
▲箱入色挿繪二十葉入▲送料十六錢

## 童話久留島武彦話集

▲久留島先生の十八番集  
▲童話壇上三十年の記念  
▲十三話を會心の傑作  
▲超豪華版お話本の王様  
▲美卓絶にて家庭用高級  
▲讀物童話として大歡迎の絶  
▲好クリスマスお年玉の  
▲贈物として最上の良書

版三 東京女高師教授  
附屬幼稚園主事  
倉橋惣三先生著

幼稚園保育法眞諦

四六判美本  
價二、五〇  
送〇、一六

倉橋惣三先生序  
幼山憲堂先生著  
兒童話の話方と實例  
價三、八〇

版七十 奈良女高師教授  
附屬幼稚園主事  
森川正雄先生著

幼稚園の理論及び實際

菊三百頁  
價三、〇〇  
送〇、一六

奈良女高師教授  
橫井曹一先生著  
價三、八〇  
最新  
手技資料と其扱法

版六 奈良女高師教授  
附屬幼稚園主事  
森川正雄先生著

幼稚園の經營

四六判四百頁  
價二、八〇  
送〇、一六

大阪家なき  
幼稚園長橋詰良一先生著  
價二、五〇  
主張  
家なき幼稚園と實際

版三 東京女高師教授  
附屬小學校主事  
堀七藏先生著

幼稚園保育の諸問題

四六判四百頁  
價二、八〇  
送〇、一六

東京女高師教授  
倉橋惣三先生共著  
價三、八〇  
新庄よし先生著  
日本幼稚園史

版八 奈良女高師教授  
附屬幼稚園主事  
森川正雄先生著

保姆教育學

菊判三百頁  
價二、八〇  
送〇、一六

東京音樂學校教授  
高折宮次先生著  
價、九〇  
ピアノノ新教本

版六 奈良女高師教授  
附屬幼稚園主事  
森川正雄先生著

幼稚園保育法

菊判三百頁  
價二、〇〇  
送〇、一六

東京音樂學校教授  
眞篠俊雄先生著  
價、六〇  
オルガン新教本

東大 京阪 東洋圖書株式會社發兌

東京市神田區神保町一丁目六七一番地・振替東京一〇三七番  
大阪市南區安内寺町一丁目二八番地・振替大阪三九五五番

# クリスマス・年末・お正月!

## 嬉しい季節を迎へる手技用品

- ◇ストッキング用織紙——色美しい純日本紙の織紙の  
沓下 五十組 金七拾錢
- ◇星——金紙、銀紙を打ちぬいた輝く星、  
大小二種 一箱 金參拾錢
- ◇柘の葉——濃緑とビワ色の葉、紅い圓  
い實を添へたもの 一箱 金參拾錢
- ◇お誕生祝の鯛——極彩色の  
鯛をその形に打ち抜いた  
美しいカード  
百枚 金壹圓八拾錢
- ◇後藤連繫紙——菊、楓、  
柘の三種、色各種連繫裝飾  
用 一箱 金參拾錢
- ◇國旗と日の丸・提灯と日の丸——裝飾用、  
何れも百組入れ 一箱 金拾八錢
- ◇カレンター懸星形——厚紙銀紙十六種の星形臺紙、  
應用の途多し 五十枚 金貳圓五拾錢
- ◇羽子板材料——桐白木、之にお細工意匠をいたします 十本 金壹圓
- ◇凧の材料——手技として面白く、和紙、竹骨で一組 五十枚 金壹圓
- ◇獨樂の材料——幼兒自身が製作意匠し、廻はせるもの五十個 金七拾五錢
- ◇カルタ——子供カルタ(參拾錢)・モモトラウカルタ(貳拾五錢)  
健康カルタ(拾五錢)等幼兒専用の面白いもの。



### 館ルベレーフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・四ノ二町保神・田神・京東 店本  
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認  
 (毎月一回) 同 十五 日發行  
 昭和十年十二月十三日印刷納本  
 昭和十年十二月十五日發行 行

定價三十五錢